



# 株式会社常磐植物化学研究所 ESGレポート2026



●編集方針

株式会社常磐植物化学研究所のESG レポートは、株主・お取引先様・地域の皆さまをはじめとする幅広いステークホルダーの皆さまに、当社のサステナビリティ推進方針や考え方・目標・体制・具体的な取組みを深く理解していただくことを目的としています。私たちは「植物に感謝し、生かされる会社になる」という経営理念のもと、植物の持つ力を最大限に活かし、社会に貢献することを使命としています。植物が示す静かなる強さと持続する変化から学び、私たち自身も絶え間ない進化を続けて参ります。

前年度の取組みを中心に「ESG レポート 2026」でご報告します。

●報告対象期間

2025年4月1日～2026年3月31日

●発行情報

発行日：2026年8月17日（月）

●第三者機関

| 第三者機関                  | カテゴリー | 内容            |
|------------------------|-------|---------------|
| 株式会社日本格付研究所(JCR)       | 環境、社会 | ポジティブインパクト評価  |
| 一般財団法人 日本能率協会          | 環境    | 温室効果ガス排出量算定検証 |
| 一般財団法人 持続性推進機構         | 環境    | エコアクション21 認証  |
| 東京中小企業投資育成株式会社         | ガバナンス | 株主            |
| 税理士法人 千葉中央会計事務所        | ガバナンス | 社外監査役         |
| 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 | ガバナンス | 特許の財務価値評価     |

●ESGレポートの変遷



# ●会社概要

会社名：株式会社常磐植物化学研究所

設立：1949年10月8日

資本金：8,000万円

従業員数：174名

代表取締役：立崎 仁

所在地 本社：千葉県佐倉市木野子158番地

支社：東京都中央区日本橋本町4-4-16 日本橋内山ビル6F

本社  
千葉県佐倉市

東京支社  
中央区日本橋



## 事業内容



### 原料製造

医薬品原薬  
健康食品原料  
化粧品原料  
食品添加物



### 受託製造

原料  
中間体



### 研究用試薬・受託分析

高純度化合物  
受託精製  
メタボローム解析

## 設立趣意

植物化学の成果の医薬的応用により、社会公衆の福祉増進に寄与することを  
念願として設立するものであって、従って本社の事業は単に営利のみを  
目的とせず、一半の力を植物化学の発達にも投ぜんとするものである。

若し之に依って祖国再建の礎石の一半を荷うこと、  
なれば、本社設立の主旨は達成されたに近い。

tokiwa  
PHYTOCHEMICAL

### 株式会社常磐植物化学研究所 行 動 規 範

私たちは、『経営理念』と、以下に定める『行動規範』を遵守します。  
そして、地域、社会の未来を牽引できる倫理観を持ち続け、社会的責任を果たします。

#### 【 行動規範 】

1. 人間として正しい行動をします。
2. 人の命と健康、人権、文化、宗教を尊重します。
3. 学び、成長の機会を生涯持ち続けます。
4. 事業継続力 (BCP)、ESG 経営力を高めます。
5. 法令や規則を厳格に遵守します。
6. 個人・機密情報を守り、正確に情報発信します。
7. 反社会的勢力との関係を排除します。

社長、役員、部門長は、本規範を率先垂範し、shine の人間力向上に努めます。

※社内においては、tokiwa で働く従業員を「shine」と表記します。

2026年4月1日  
株式会社常磐植物化学研究所  
代表取締役社長

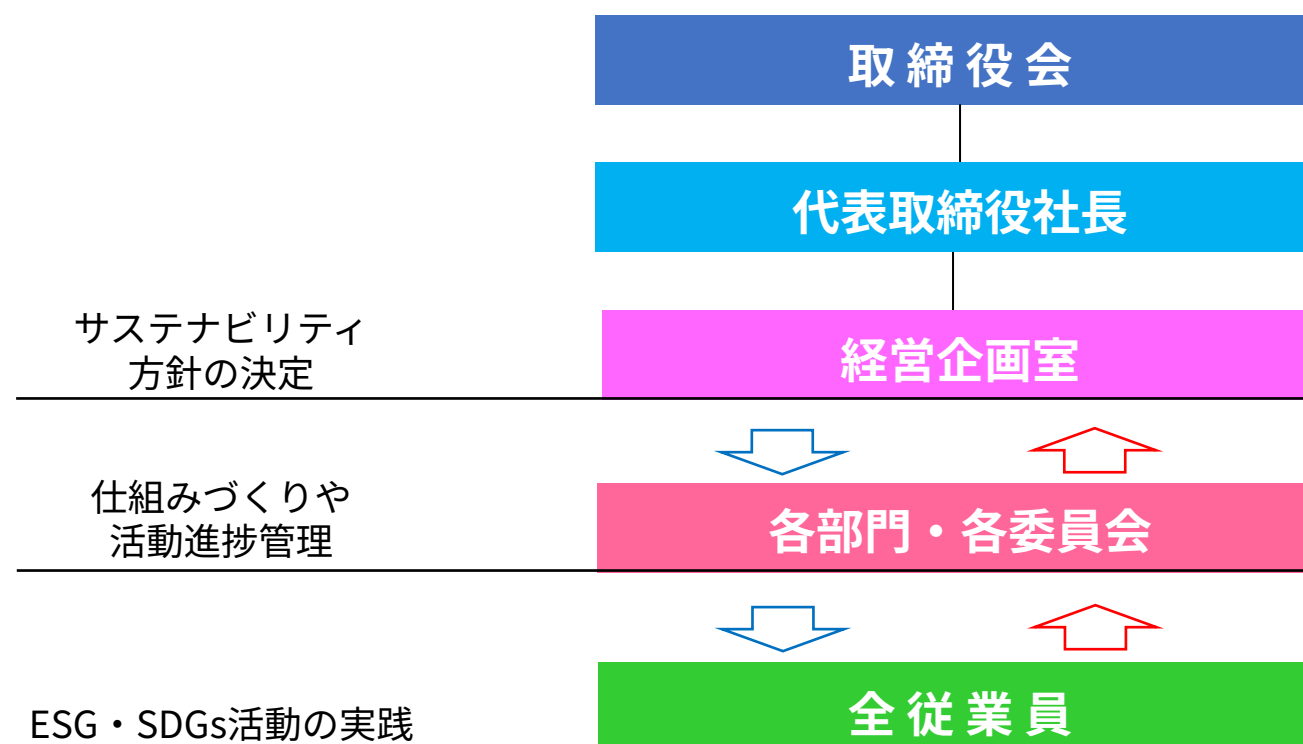
立崎 仁

|      |         |      |      |       |       |       |
|------|---------|------|------|-------|-------|-------|
| 営業本部 | R&BD 本部 | 管理本部 | 生産本部 | DX 本部 | 品質保証室 | 経営企画室 |
|      |         |      |      |       |       |       |

# 経営理念

私たちは、  
植物のちからを引き出し、新たな価値を創造します。  
最高の技術で、最高の製品を製造します。  
社員の幸福と社会の発展に貢献します。  
そして、植物に感謝し、生かされる会社になります。

## ●サステナビリティ推進体制



## ●サステナビリティ方針



株式会社常磐植物化学研究所

### 経営理念

私たちは、  
植物のちからを引き出し、新たな価値を創造します。  
最高の技術で、最高の製品を製造します。  
shineの幸福と社会の発展に貢献します。  
そして、植物に感謝し、生かされる会社になります。

### 行動規範

### サステナビリティ方針

1. 私たちは、限りある経営資源を大事にします。
2. 私たちは、社会、地球、植物から生かされる人・組織・会社であるために、何をすべきかを常に考え、行動します。  
サステナビリティ方針を基本に、以下の方針を定め、実施します。

人権方針

健康経営方針

BCP方針

労働安全衛生方針

品質方針

環境経営方針

調達方針

情報セキュリティ基本方針

2026年4月1日  
株式会社常磐植物化学研究所  
代表取締役社長

**立崎 仁**

| 営業本部 | R&BD本部 | 管理本部 | 生産本部 | DX本部 | 品質保証室 | 経営企画室 |
|------|--------|------|------|------|-------|-------|
|      |        |      |      |      |       |       |



# トップメッセージ

## 「Plant Inspired Companyの挑戦」

常磐植物化学研究所のESGレポート2026をご覧ください、誠にありがとうございます。

今期、私たちは創業77周年を迎えます。これもひとえに、お客様、お取引先様、株主の皆様、地域社会の皆様、そして何より社員とご家族のご支援の賜物であり、心より感謝申し上げます。

私たちは「生かされる」を経営理念に掲げています。人も企業も単独では存在できず、多くの人々や自然環境とのつながりの中で生かされています。そして、そのことを最もよく教えてくれる存在が植物です。

植物は人類より千倍、二千倍も長く、そして広く、この地球上に生きてきました。地球上のバイオマスの8割以上を植物が占めており、炭素循環の要としてあらゆる生命を支えています。

「植物は動かない」

動物のように移動せず、競争相手を力で排除することはありません。制約が多い中でも植物が繁栄してきた背景には、「適応（Adaptation）・共生（Symbiosis）・再生（Regeneration）」の生存戦略があります。

2025年、「日本でいちばん大切にしたい会社大賞」厚生労働大臣賞、2026年には2度目の環境大臣賞を受賞しました。また、必要資金の9割以上をESGファイナンスで調達し、ESGを実践してきました。今期は、里山、文化、祖業の再生に力を注ぎます。

最後に、私たちは社業発展のみならず、植物の生存戦略に学ぶ経営モデルとしてPIC（Plant Inspired Company）を提唱して参ります。「適応・共生・再生」を通じて持続的な成長を実現する企業のあり方を社会に広げ、人と植物の明るい未来の創造に貢献して参ります。



代表取締役社長

立崎 仁

博士（薬科学）

公益社団法人東京生薬協会 副会長

日本医薬品原薬工業会 理事

日本漢方生薬製剤協会 理事

一般社団法人日本健康食品規格協会（JIHFS）理事

一般社団法人日本ブルーベリー協会 理事

一般社団法人千葉県経営者協会 人づくり委員会委員長

佐倉商工会議所 常議員 地域振興委員会委員長

一般社団法人成田法人会 理事

公益財団法人塚本美術館 理事

公益財団法人岩城留学生奨学会 評議員





## 目次

p. 7 価値創造MAP

p. 8 サステナビリティ戦略

価値創造マップ、サステナビリティ戦略の基礎、課題の特定プロセス、課題の分析（植物の生存戦略から学ぶ）マンダラ作成、2030年までのポジティブインパクト評価とKPI及び活動実績、リスクと機会の再評価、財務への影響評価、非財務への影響評価、SDGsの取り組み

p.15 環境 Environment

p.33 社会 Social

p.45 ガバナンス Governance

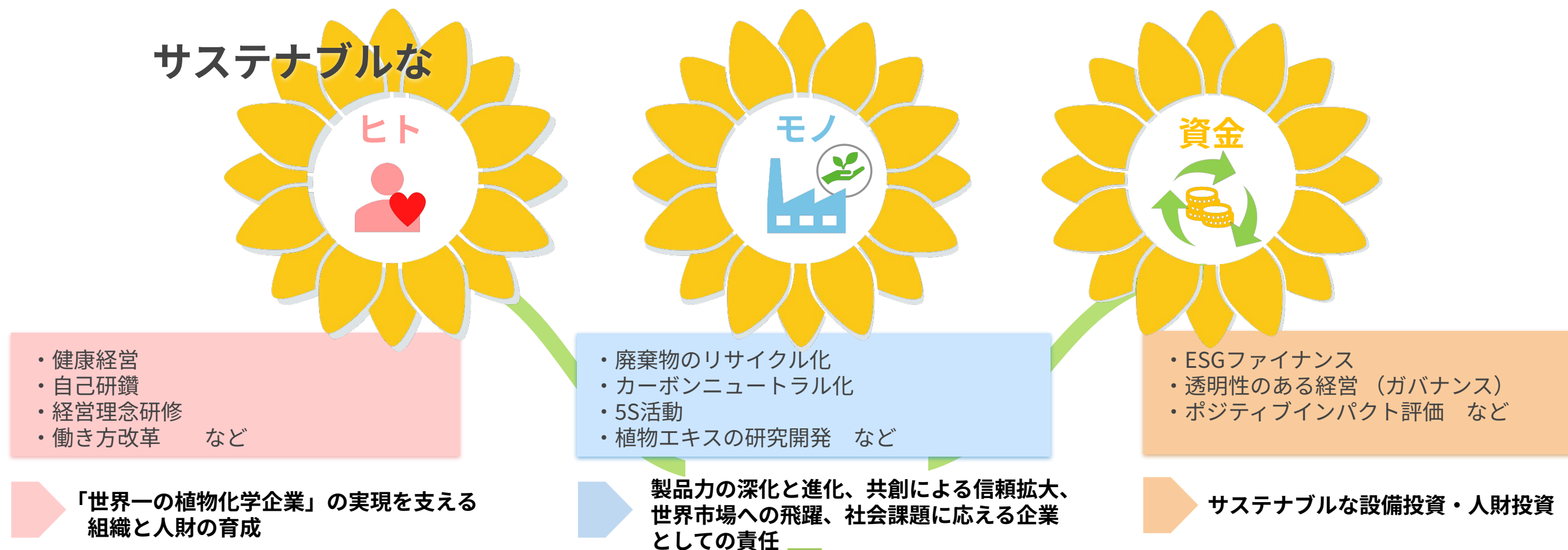
p.51 ステークホルダーエンゲージメント



## ●価値創造マップ

## 世界一の植物化学企業へ

私たちは経営理念を軸に、植物の生存戦略（自己変革・利他性）に学び、サステナブルな「ヒト・モノ・カネ」の創造によって、世界一の植物化学企業を目指しています。以下マップは、当社の持続的な価値創造の図解です。



植物の生存戦略から学ぶ

自己変革

利他性

で、生かされる会社へ

### 経営理念

私たちは、  
植物のちからを引き出し、新たな価値を創造します。  
最高の技術で、最高の製品を製造します。  
社員の幸福と、社会の発展に貢献します。  
そして、植物に感謝し、生かされる会社になります。



## ●サステナビリティ戦略の基礎

## 世界一の植物化学企業へ

「植物に感謝し、生かされる会社」を経営理念に掲げる当社は、動かずして繁栄する植物の生存戦略を自社の生存戦略に応用、2024年の全社研修の中で生存戦略マンダラを作成しています。自社のマンダラに置き換え、「生かされる会社」になるための行動方針を定め推進しています。

## ●課題の特定プロセス

課題の分析  
生存戦略マンダラ作成  
(植物の生存戦略から学ぶ)

課題の特定

ポジティブインパクト評価

実績モニタリング  
(2025年)

## ●課題の分析：マンダラ作成（植物の生存戦略から学ぶ）

常磐植物化学研究所の  
生存戦略マンダラ

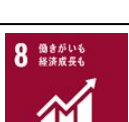
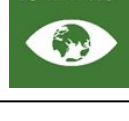
|                        |                 |                      |                 |                         |                     |                      |                  |                    |
|------------------------|-----------------|----------------------|-----------------|-------------------------|---------------------|----------------------|------------------|--------------------|
| tokiwaファンになってもらう       | Win-Winな関係を築く   | 品質管理体制を提供する          | 協力企業や同業他社と協働する  | 意見を出し合って決める             | ダイバーシティ人財を迎える       | 能動的に情報発信する           | 利益を還元する          | 社員1人1人が利益を生み出す     |
| 敬意と感謝を伝える              | 与える<br>(お取引先様)  | 技術を開示する              | 透明性のある組織を運営する   | 調節する<br>(事業・規模)         | 規模に適した人財を獲得する       | 前向きな姿勢を見せる           | 与える<br>(銀行・オーナー) | 社会に存在価値を示す         |
| 対等な関係を構築する             | 誇りを共有する         | 経営の手本となる             | 有事に備える          | 幅広い市場に浸透する              | 計画的な設備投資を行う         | 今後への期待感を示す           | 盤石な財務基盤を構築する     | 透明性のある情報を開示する      |
| 新たな認証を取得する             | 利益を還元する         | 資源を再利用する             | 与える<br>(お取引先様)  | 調節する<br>(事業・規模)         | 与える<br>(銀行・オーナー)    | SDGSの目標7, 12を達成する    | 潜在的なニーズから商品を作り出す | 多様化組織を作る           |
| エネルギーを効率的に利用する         | 適応する<br>(業界・社会) | 3R製品を作る              | 適応する<br>(業界・社会) | 常盤の「生かされる」行動と経営         | 適応する<br>(業界・社会)     | 目先の利益を追わないESG経営を推進する | 適応する<br>(業界・社会)  | 成長市場に注力する          |
| 雇用を創出する                | 生態系を保護する        | サプライチェーンの中心としての自覚を持つ | 与える<br>(お客様)    | 自らを変える<br>進化・変化<br>(社員) | 繋がる<br>(社会・宇宙)      | 市場の声に耳を傾け柔軟な対応をする    | 苦境でも活路を見出す       | グローバル市場に展開する       |
| tokiwaのウェルビーイングに触れてもらう | そうだ！tokiwaに聞こう！ | 満足・ハピネス・感動・夢を与える     | 変革マインドを持つ       | 多様な価値観を理解する             | コミュニケーションを促進する      | 常盤薬祖神社で祈る            | 学会発表やアカデミアに参加する  | ウェルビーイング施設を通してつながる |
| 品質と価格のバランスの取れた製品を提供する  | 与える<br>(お客様)    | 安全性データを拡充する          | 新たな試みに挑戦する      | 自らを変える<br>進化・変化<br>(社員) | 人生を楽しむ<br>目的を持って生きる | 被災地域、戦争地域を支援する       | 繋がる<br>(社会・宇宙)   | 挨拶と礼儀正しい行動を取る      |
| 環境配慮の選択肢となる            | 必須成分を提供する       | 独自エビデンスを提供する         | 経験を取りに行く        | 時間をかけて成長する              | 本を読み人間性を磨く          | 清掃と地域行事に参加する         | 教育活動を推進する        | tokiwaで得られる仲間と交流する |



# ●2030年度までのKPI・目標設定(2023年)

## 世界一の植物化学企業へ

ポジティブインパクト評価にて特定されたインパクトの増大・緩和に向けて、常磐植物化学研究所は次の取り組み方針(KPI)を定め、2024年度から活動しています。

| 側面       | インパクトカテゴリ       | 取り組み内容               | 2030年度までのKPI・目標                                                                                                                     | 関連するSDGs目標                                                                                                                                                                  |
|----------|-----------------|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 社会<br>経済 | 保健・衛生<br>経済収束   | 健康な社会づくり             | 2030年度までに健康に配慮したオリジナル商品2品目を開発・提供する                                                                                                  |                                                                                          |
| 社会       | 保健・衛生           | 従業員の健康増進             | ①2025年度にヘルシーテラスの利用割合を80%とする<br>②健康経営優良法人を維持する                                                                                       |                                                                                          |
| 社会       | 教育              | 教育活動への貢献<br>次世代人材の育成 | ①佐倉サイエンスアカデミー（研究者向け）を年一回開講する<br>②佐倉アカデミアを含む小中高生向け講義を年3回実施する<br>③2025年度以降、年に1回 松尾仁賞（植物化学シンポジウム）表彰を実施する                               |                                                                                          |
| 社会       | 雇用              | 働きやすい<br>職場環境づくり     | 2026年度までにユースエール認定を取得する                                                                                                              |                                                                                         |
| 社会       | 雇用              | 働きやすい<br>職場環境づくり     | 2030年度までに<br>①時間外労働の削減 10時間未満/月<br>②有給休暇取得率の向上<br>付与された有給休暇の日数の70%取得した人の割合70%以上                                                     |                                                                                        |
| 環境       | 水質              | 環境負荷の軽減              | 2030年度までに総地下水吸い上げ量を3,500m <sup>3</sup> （売上高1億円あたり）とする                                                                               |                                                                                        |
| 環境       | 資源効率・安全性<br>廃棄物 | 資源の再活用               | 2030年度までに廃棄物(抽出残渣)100%をリサイクル可能な資源として活用する                                                                                            |   |
| 環境       | 気候              | 環境負荷の軽減              | 2030年度までにJクレジットを創出する                                                                                                                |   |
| 環境       | 気候              | 環境負荷の軽減              | ①2030年度までにカーボンニュートラルを達成する<br>②2030年度までに自家消費太陽光発電の発電容量を750kWとする<br>③使用電力の再生可能エネルギー比率100%を維持する。<br>④2025年度までに「再エネ100宣言RE Action」に登録する |   |
| 経済       | 経済収束            | 地域社会への貢献             | 本社・自社工場を災害時等のBCP拠点化し、2030年度までに拠点としての体制を整備する                                                                                         |   |



# ●2030年度までのKPI・2025年度の活動実績 .....▶ 世界一の植物化学企業へ

2024年度から活動を開始、KPIの目標に対して2年目、環境の取り組みは計画前倒しで推進中、社会の取り組みは課題を再整理し2030年迄の活動を進めています。

| 側面       | インパクトカテゴリ      | 取り組み内容               | 2030年度までのKPI・目標                                                                                                                     | 2024年結果                                         | 2025年結果                                              |
|----------|----------------|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| 社会<br>経済 | 保健・衛生<br>経済収束  | 健康な社会づくり             | ①2030年度までに健康に配慮したオリジナル商品2品目を開発・提供する                                                                                                 | ① 1 件                                           | ①累計 1 件                                              |
| 社会       | 保健・衛生          | 従業員の健康増進             | ①2025年度にヘルシーテラスの利用割合を80%とする<br>②健康経営優良法人を維持する                                                                                       | ①93.9%<br>②ブライト500                              | ①100%<br>②ネクストブライト1000                               |
| 社会       | 教育             | 教育活動への貢献<br>次世代人材の育成 | ①佐倉サイエンスアカデミー（研究者向け）を年一回開講する<br>②佐倉アカデミアを含む小中高生向け講義を年3回実施する<br>③2025年度以降、年に1回 松尾仁賞（植物化学シンポジウム）表彰を実施する                               | ① 1 回【12月】<br>② 4 回<br>③ 1 回【11月】               | ① 1 回【9月】<br>② 5 回<br>③ 1 回【11月】                     |
| 社会       | 雇用             | 働きやすい<br>職場環境づくり     | ①2026年度までにユースエール認定を取得する                                                                                                             | ①計画                                             | ①推進中                                                 |
| 社会       | 雇用             | 働きやすい<br>職場環境づくり     | 2030年度までに<br>①時間外労働の削減 10時間未満/月<br>②有給休暇取得率の向上<br>付与された有給休暇の日数の70%取得した人の割合70%以上                                                     | ①平均14.9時間/月<br>②63%                             | ①22.2時間/月<br>②55%                                    |
| 環境       | 水質             | 環境負荷の軽減              | ①2030年度までに総地下水吸い上げ量を3,500m <sup>3</sup> （売上高1億円あたり）とする                                                                              | ①2,413m <sup>3</sup> /1億円                       | ①2,374m <sup>3</sup> /1億円                            |
| 環境       | 資源効率<br>安全性廃棄物 | 資源の再活用               | ①2030年度までに廃棄物（抽出残渣）100%をリサイクル可能な資源として活用する                                                                                           | ①100%                                           | ①100%                                                |
| 環境       | 気候             | 環境負荷の軽減              | ①2030年度までにJクレジットを創出する                                                                                                               | ①10.1 t 登録                                      | ①71.0 t 登録                                           |
| 環境       | 気候             | 環境負荷の軽減              | ①2030年度までにカーボンニュートラルを達成する<br>②2030年度までに自家消費太陽光発電の発電容量を750kWとする<br>③使用電力の再生可能エネルギー比率100%を維持する。<br>④2025年度までに「再エネ100宣言RE Action」に登録する | ①399.9 t -CO2<br>②440kW<br>③10.2%<br>④2月宣言(登録済) | ①22.9 t -CO2<br>②495kW<br>③45.6%<br>④宣言(2030年迄に100%) |
| 経済       | 経済収束           | 地域社会への貢献             | ①本社・自社工場を災害時等のBCP拠点化し、2030年度までに拠点としての体制を整備する                                                                                        | ①計画中                                            | ①社内:本社棟太陽光4.2kW<br>②社外:ヘルシーテラス太陽光20.1kW              |



## ●リスクと機会・再評価

## 世界一の植物化学企業へ

ポジティブインパクト評価にて定めた取り組み方針と2025年度の推進状況から、「リスク」と「機会」を以下のように評価しました。

| 側面       | インパクトカテゴリ       | 取り組み内容               | リスク                                                                                                                                                             | 機会                                                                                                                                                                            |
|----------|-----------------|----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 社会<br>経済 | 保健・衛生<br>経済収束   | 健康な社会づくり             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・超高齢化社会に伴う介護の増加による労働力不足</li> <li>・生活習慣病(肥満,糖尿病等)の有病率上昇と労働力不足</li> <li>・ストレス社会における幸福度の低下</li> <li>・地政学的な動向への対応</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自社製品配合の健康食品の普及で健康寿命延伸</li> <li>・心身のウェルビーイングへの貢献</li> <li>・里山保全活動から地域の憩いの場所の創出</li> </ul>                                              |
| 社会       | 保健・衛生           | 従業員の健康増進             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・従業員のパフォーマンス低下</li> <li>・人手不足</li> </ul>                                                                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・従業員のパフォーマンス向上</li> <li>・従業員満足度の向上</li> <li>・人材確保の機会創出</li> <li>・人材の維持</li> </ul>                                                      |
| 社会       | 教育              | 教育活動への貢献<br>次世代人材の育成 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな人材確保の機会喪失</li> <li>・地域とのコミュニケーション不足によるトラブル</li> </ul>                                                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材確保の機会創出</li> <li>・地域コミュニティとの良好な関係構築</li> <li>・次世代人材の育成により植物化学の発展へ寄与</li> </ul>                                                      |
| 社会       | 雇用              | 働きやすい<br>職場環境づくり     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・社員満足度の低下</li> <li>・人材の流出とそれによる人手不足</li> </ul>                                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢、性別関係なく多様な人材が働けるダイバーシティ経営の実現</li> <li>・プロパー人材の育成</li> </ul>                                                                         |
| 環境       | 資源効率・安全性<br>廃棄物 | 資源の再活用               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物処理によるCO2排出量の増加</li> <li>・廃棄物処理にかかるコスト高騰</li> </ul>                                                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・植物資源廃棄物から生まれる新たな価値、ビジネス機会の創出</li> <li>・廃棄物の量およびコスト低減技術への挑戦</li> <li>・中小企業版SBTi宣言を行い温室効果ガスの更なる削減</li> <li>・バイオ炭づくりから新たな創出活動</li> </ul> |
| 環境       | 気候              | 環境負荷の軽減              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・気候変動による植物原料の不作</li> <li>・気候変動による物流コストの高騰</li> <li>・生物多様性喪失、生態系劣化</li> </ul>                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・植物のサステナブルな調達</li> <li>・他植物のポテンシャル発見</li> <li>・新たなネットワークで新たな環境連携</li> <li>・森林保全活動から生物多様性、生態系の維持</li> </ul>                             |

※太文字は本レポートで再評価を行いました箇所となります。

## ●財務への影響評価

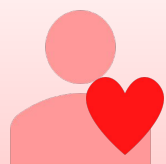


## 世界一の植物化学企業へ

植物の生存戦略から『自己変革』と『利他性』を学び、【生かされる会社】に向けて、サステナブルな【ヒト・モノ・資金】を進めています。  
ESG経営、健康経営を推進する中でサステナブルな社会の構築に向けて企業運営を進めていきます。

### サステナブルな

ヒト



- ・「世界一の植物化学企業」の実現を支える組織と人財の育成



モノ

- ・製品力の深化と進化
- ・共創による信頼拡大
- ・世界市場への飛躍
- ・社会課題に応える企業としての責任

資金



- ESGファイナンスによるサステナブルな設備投資・人財投資

### ESG経営と健康経営

E

環境

- ・CO2排出量削減
- ・植物抽出残渣の100%リサイクル
- ・生物多様性の保全
- ・水質の保全
- ・廃棄物削減

S

社会

- ・健康経営
- ・教育CSR
- ・地域周辺美化活動
- ・多様な働き方
- ・残業時間の削減

G

ガバナンス

- ・株主総会
- ・全社総会
- ・経営理念研修
- ・各種相談窓口の設置
- ・法令順守

健康経営

- ・SAKURAスポーツパーク
- ・sakuraヘルシーテラス
- ・佐倉ハーブ園
- ・福利厚生充実
- ・健康経営サプリー

#### ESGリスク

- ①財務的損失：環境規制強化、気候変動による自然災害、人権問題による訴訟など、ESGに関連するリスクは直接的に財務的損失を招く可能性があります。
- ②社会的信頼の低下：ESGに関する不祥事や問題は、顧客、従業員、株主からの信頼を失わせ、売上減少や株価の下落につながります。
- ③当局からの制裁：環境規制違反や不正行為は、罰金や事業停止などの制裁を招き、企業活動を阻害する可能性があります。

#### ESG機会

- ①企業価値の向上：環境に配慮した製品やサービスを提供することで、顧客からの支持を高め、ブランドイメージを向上させることができます。
- ②持続可能な成長：サステナビリティに関する取り組みは、長期的な競争力を高め、持続的な成長を促します。
- ③新たなビジネスチャンス：環境負荷の低減、資源の有効活用、社会課題解決のための新サービスなど、ESGに関連する取り組みは、新たなビジネスチャンスを創出する可能性があります。



## ●非財務への影響評価

## 世界一の植物化学企業へ

サステナブル経営と脱炭素のMAPを示します。SDGsを事業の軸としESG経営（環境・社会・ガバナンス）と、健康経営（身体・食・心）を進めて来ました。心の健康に向けた新たな取り組みとして、森林経営を進める中で森林からの学びを活動へ展開しています。SDGsの次の姿として2025年に新設した【ウェルビーイング部】から【自分・身近な人・地域/社会・地球へ】と、ウェルビーイングの輪を広げていきます。

### ESG Environment, Social, Governance

tokiwa  
PHYTOCHEMICAL

## サステナブル経営 × 脱炭素

E  
環境

S  
社会

G  
ガバ  
ナンス

森林  
経営

健康  
経営

食

身体

心

### ウェルビーイング Well-being

### SDGs Sustainable Development Goals

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT GOALS



再エネ100宣言  
RE Action



2026  
健康経営優良法人  
KENKO Investment for Health  
中小規模法人部門  
ネクストブライツ1000



セキュリティ対策自己宣言

適正製造規範  
GMP  
JIHFS 一般社団法人  
日本健康食品規格協会



sakuraヘルシーテラス



SAKURAスポーツパーク



佐倉ハーブ園



柴海農園  
SHIBAKAI Nouen



# 世界一の植物化学企業へ

**SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS**



| 2025年ESGレポート 項目 SDGs |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                |                                                                                                                                      |
|----------------------|---------|-----------|------------|--------------|-----------|------------|-----------|-----------------|----------------|----------------------|-----------------|------------|------------|-------------|-------------|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1<br>環境              | 2<br>社会 | 3<br>気候変動 | 4<br>健康と福祉 | 5<br>ジェンダー平等 | 6<br>水と衛生 | 7<br>エネルギー | 8<br>経済成長 | 9<br>産業、基盤施設、労働 | 10<br>公平な取引と消費 | 11<br>持続可能な都市とコミュニティ | 12<br>責任ある消費と生産 | 13<br>気候変動 | 14<br>海洋資源 | 15<br>陸域生態系 | 16<br>平和と公正 | 17<br>パートナーシップ |                                                                                                                                      |
|                      |         | ●         |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | 2030年度までに健康に配慮したオリジナル商品2品目を開発・提供する                                                                                                   |
|                      |         | ●         |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | ①2025年度にヘルシーテラスの利用割合を80%とする<br>②健康経営優良法人を維持する                                                                                        |
|                      |         |           | ●          |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | ①飲食サイエンスアカデミー（研究者向け）を年一回開講する<br>②飲食アカデミアを育む小中高生向け講義を年3回実施する<br>③2025年度以降、年に1回「松屋」賞（植物化学シンポジウム）表彰を実施する                                |
|                      |         |           |            |              |           |            | ●         |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | 2030年度までにユースメール認定を取得する。                                                                                                              |
|                      |         |           |            |              |           |            | ●         |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | 2030年度まで<br>①時間外労働の削減 10時間未満/月<br>②有給休暇取得率の向上、付与された有給休暇の日数の70%取得した人の割合70%以上。<br>2030年度まで地下水涵み上げ量を3,500㎥（売上高1億円あたり）とする                |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                | ●                    |                 |            |            |             |             |                | 2030年度まで廃棄物（抽出残渣）100%をリサイクル可能な資源として活用                                                                                                |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            | ●           |             |                | 2030年度までにLクレジットを創出する                                                                                                                 |
|                      |         |           |            |              |           |            | ●         |                 |                |                      |                 |            |            | ●           |             |                | ①2030年度までにカーボンニュートラルを実現する<br>②2030年度までに自家消費太陽光発電の発電容量を750kWとする<br>③使用電力の再生可能エネルギー比率100%を維持する。<br>④2025年度までに「再エネ100宣言R&E Action」に登録する |
|                      |         |           |            |              |           |            |           | ●               |                |                      |                 |            |            | ●           |             |                | 本社・自社工場を災害時等のBCP策定化し、2030年度までに拠点としての体制を整備する                                                                                          |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                | ●                    |                 |            |            | ●           |             |                | 【産業廃棄物量】ストレッチフィルムの資源循環                                                                                                               |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            | ●           |             |                | 【産業廃棄物量】残渣のバイオガス化                                                                                                                    |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | 【CO2排出量】ガソリン車をEV車へ更新                                                                                                                 |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             | ●           |                | 【排水量】水質に配慮した生産活動                                                                                                                     |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | 【CO2排出量】グリーン調達・グリーン購入                                                                                                                |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | 【一般廃棄物量】食品ロス・減に向けた生ごみ処理機活用                                                                                                           |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | 【食品・産業廃棄物量】植物資源廃棄物のリサイクル                                                                                                             |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | 【CO2排出量】太陽光発電                                                                                                                        |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | 【CO2排出量】カーボンオフセットエネルギーを使用                                                                                                            |
| ●                    |         | ●         |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             | ●              | ペットボトルキャップリサイクルからリクチン提供への協力                                                                                                          |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | 【再エネ特選：太陽光パネル】 sakuraヘルシーテラス・本社棟                                                                                                     |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | 【CO2排出量：暑さ対策】夏の通風対策                                                                                                                  |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             | ●              | 【環境活動】社員の環境活動から広がる、資源リソースと教育支援の輪                                                                                                     |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | 【再エネ100宣言】目標と特長                                                                                                                      |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | 【CO2排出量：ガス→電気】給湯器の再エネ100電化化                                                                                                          |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | 【生物多様性】土壌づくりの進化                                                                                                                      |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | 【地下水】サステナブルな地下水活用2025                                                                                                                |
|                      | ●       |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            | ●           |             |                | 【森林経営実践報告】新たなネットワークで新たな環境の取り組み【バイオ炭】                                                                                                 |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | 環境ガバナンス                                                                                                                              |
|                      |         |           | ●          |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | 「VENETRON」2025 NIE New Ingredient Awards 第2位                                                                                         |
|                      |         |           | ●          |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | 「SIRTMAX」Natural Choice Awards Ingredient Edition                                                                                    |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      | ●               |            |            |             |             |                | マルシェ開催                                                                                                                               |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      | ●               |            |            |             |             |                | 健康経営サブリ                                                                                                                              |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      | ●               |            |            |             |             |                | 社員食堂のリニューアル                                                                                                                          |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | ラジオ体操指導員認定取得特報（ラジオ体操セミナー、ラジオ体操優良団体等表彰）                                                                                               |
|                      |         |           |            |              |           |            |           | ●               |                |                      |                 |            |            |             |             |                | スポンサー協力                                                                                                                              |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | 健康まちづくりプロジェクトへの協賛                                                                                                                    |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | 恵大連発活動カリス女子中学高等学校                                                                                                                    |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | 労働条件                                                                                                                                 |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | 労働時間と公正な賃金                                                                                                                           |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | 労働活動                                                                                                                                 |
|                      |         |           | ●          |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | 外部の利害関係者の人権                                                                                                                          |
|                      |         |           | ●          |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | 多様性 平等 包摂性                                                                                                                           |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | 地域行事協賛（秋祭り、段ボールカダOUP、飲食花火フェスタ、さくら天下祭り）                                                                                               |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | ● 環境経営・健康経営の推進                                                                                                                       |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | ● 千草華優賞企業経営者表彰 副賞賞状                                                                                                                  |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | CHIBAビジョン2026サポーター賞の提供                                                                                                               |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | SAKURA Bloom Garden ～設立から「地域共生」と「資源循環」の深化へ～                                                                                          |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | ● 地域貢献の強化活動                                                                                                                          |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | ● 飲食系非営利団体チャリティー献金活動                                                                                                                 |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | ● サプライヤーに対するCSR評価（環境慣行、社会慣行）                                                                                                         |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | ● 児童労働・強制労働・人身売買の禁止                                                                                                                  |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | SECURITY ACTION                                                                                                                      |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | ● 情報セキュリティ評価                                                                                                                         |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | ● 法令遵守・報告対応（GMP、HACCP、食衛生法など）                                                                                                        |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | ● 利益相反の管理（反競争的買収）行動規範                                                                                                                |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | ● 知財戦略                                                                                                                               |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | ● 経営理念研修                                                                                                                             |
|                      |         |           |            |              |           |            |           |                 |                |                      |                 |            |            |             |             |                | ● 食料委員会                                                                                                                              |



## 環境 – Environment 目標と実績

| No. | 側面 | インパクトカテゴリ       | 取り組み内容  | 2030年度までのKPI・目標                                                                                                                     | 2025年度 実績（前年度比較）                                                                                                                        | 関連するSDGs目標                                                                                                                                                                  |
|-----|----|-----------------|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| E1  | 環境 | 水質              | 環境負荷の軽減 | ①2030年度までに総地下水吸い上げ量を3,500m <sup>3</sup> （売上高1億円当たり）とする                                                                              | ① <b>2,374m<sup>3</sup>/1億円（-39m<sup>3</sup>/1億円）</b>                                                                                   |                                                                                          |
| E2  | 環境 | 資源効率・安全性<br>廃棄物 | 資源の再活用  | ①2030年度までに廃棄物（抽出残渣）100%をリサイクル可能な資源として活用する                                                                                           | ① <b>100%（+-0%）</b><br>①サブ目標：2026年度から段階的に有価物化を進める<br>→受入先との連携強化（利用価値の向上など）、新規受け入れ先の創出                                                   |     |
| E3  | 環境 | 気候              | 環境負荷の軽減 | ①2030年度までにJクレジットを創出する                                                                                                               | ①創出トン数 <b>71.0 t（+60.9 t）</b>                                                                                                           |   |
| E4  | 環境 | 気候              | 環境負荷の軽減 | ①2030年度までにカーボンニュートラルを達成する<br>②2030年度までに自家消費太陽光発電の発電容量を750kWとする<br>③使用電力の再生可能エネルギー比率100%を維持する<br>④2025年度までに「再エネ100宣言 RE Action」に登録する | ① <b>22.9 t-CO<sub>2</sub>（-377.0t-CO<sub>2</sub>）</b><br>② <b>495kW（+55kW）</b><br>③ <b>45.6%（+35.4%）</b><br>④ <b>宣言(2030年迄に100%)推進</b> |   |

# 環境 – Environment 環境経営方針 エコアクション21 (EA21)組織図及び実施体制

## 環境経営方針



### 株式会社常磐植物化学研究所 環境経営方針

#### 1. 基本理念

植物のちからを引き出し、新たな価値を創造し、人々の健康と社会の発展に貢献します。植物資源の調達から、植物化学研究、製品化まで、環境、社会への影響を重視し、持続可能な開発を目指します。また、薬用植物の栽培と教育を通じて、植物への感謝を示し、人と植物の明るい未来づくりに貢献します。

#### 2. 環境方針

私たちは環境問題、SDGs（持続可能な開発目標）を重視し、以下の方針を遵守します。また、「佐倉市ゼロカーボンシティ宣言」を支持し、2030年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指します。

##### ① 環境経営体制の強化

環境改善を継続的かつ発展的に行っていく為の経営管理サイクルを強化します。  
第三者機関による分析・評価の結果を真摯に受け止め、目標の見直しと改善を継続します。

② カーボンニュートラルを目標に、省エネルギーおよびCO<sub>2</sub>排出量削減の推進  
エネルギー効率を高め、環境にやさしい事業活動に取り組みます。

③ 循環経済（Circular Economy）の実現に向け、4R（Rethink, Reduce, Reuse, Recycle）の推進  
廃水、廃棄物及び食品廃棄物の低減、化学物質使用量削減、有効資源の再利用、紙、ダンボール、金属及び食品等の再資源化を積極的に行います。グリーン購入の推進に努め、食品製造工程の改善により、原材料ロスを削減します。

##### ④ 環境関連法規の遵守

環境法規を遵守し、国や地方の行政方針に従います。

##### ⑤ 環境方針の周知と教育の推進

地球環境と共榮していくため、shine 一人一人の環境保全の意識を高めます。  
また、薬用植物の栽培と教育を推進し、薬用植物の保全に貢献します。

##### ⑥ 地域の人々との共生

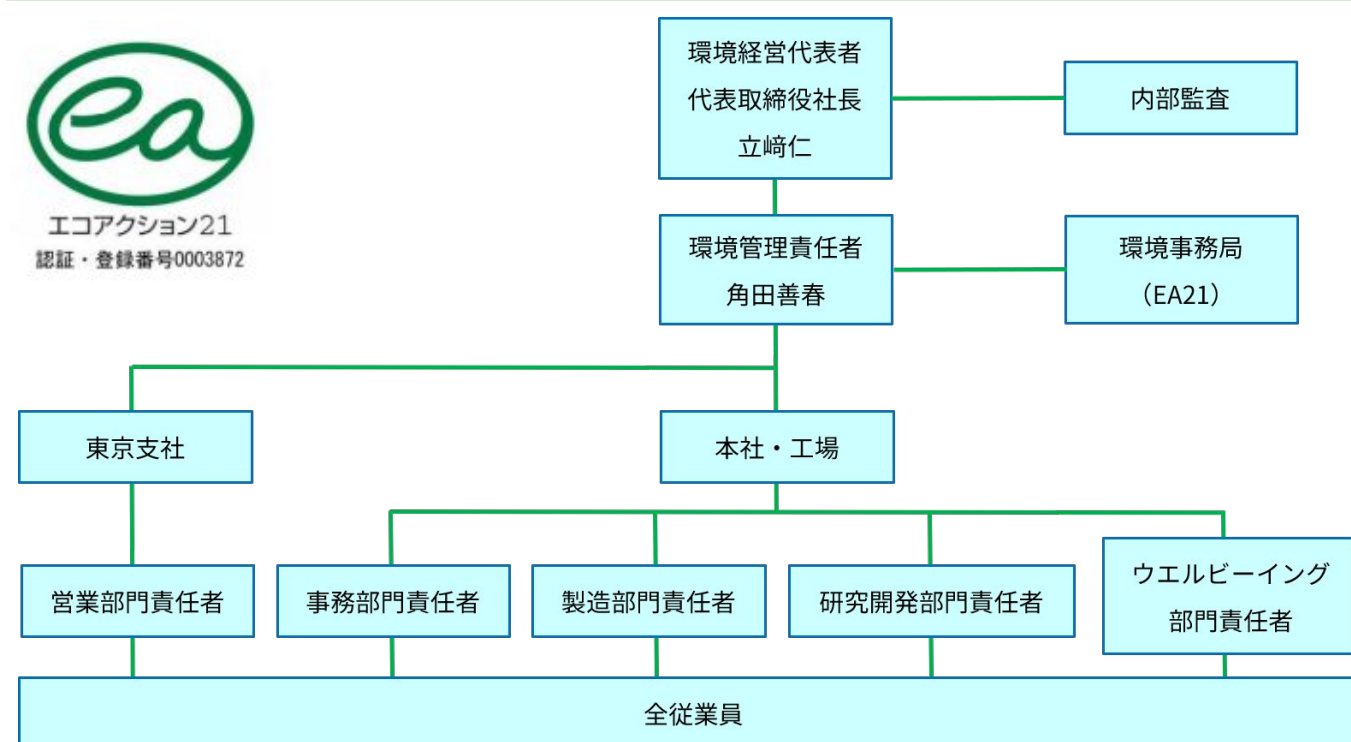
地域社会の一員として、地域の人々の安全と環境保全に努めます。

2026年4月1日  
株式会社常磐植物化学研究所  
代表取締役社長

立崎 仁

| 営業本部 | R&BD 本部 | 管理本部 | 生産本部 | DX 本部 | 品質保証室 | 経営企画室 |
|------|---------|------|------|-------|-------|-------|
|      |         |      |      |       |       |       |

## ● 環境経営システム組織図



## ● 事業内容（認証・登録の範囲）

認証・登録番号 : 0003872  
 認証・登録年月日 : 2009/07/13  
 認証・登録事業者名 : 株式会社常磐植物化学研究所  
 対象事業所名 : 本社・工場、東京支社、原料倉庫、  
排水処理場、佐倉ハーブ園、sakuraヘルシーテラス  
 所在地 : 千葉県佐倉市木野子158番地  
 事業活動内容 : 医薬品原薬、化粧品原料、  
機能性食品原料及び食品添加物の製造・販売  
ハーブ園の運営

## ● 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 : 角田 善春  
 TEL 043-498-0007



## 環境 – Environment エコアクション21(EA21)組織図及び役割・責任・権限 2026年新たな環境取り組み

### ● 役割・責任・権限

|         |                                                                                                                                                                                                          |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 環境経営代表者 | <ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営に関する統括責任</li> <li>環境経営方針の策定及び見直しを全従業員に周知</li> <li>環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間を用意</li> <li>環境目標の設定を承認</li> <li>環境管理責任者の任命</li> <li>代表者による全体の評価と見直しを実施</li> </ul> |
| 環境管理責任者 | <ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営システムを構築、実施し管理</li> <li>環境活動実施計画書・記録書を承認</li> <li>環境活動の取組結果を代表者へ報告</li> </ul>                                                                                  |
| 環境事務局   | <ul style="list-style-type: none"> <li>環境への負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施</li> <li>環境関連法規一覧の作成</li> <li>環境目標・環境活動実施計画書原案の作成</li> <li>環境活動実施計画の実績集計</li> </ul>                                             |
| 内部監査    | <ul style="list-style-type: none"> <li>内部監査の実施及び内部監査チェックリストの作成</li> <li>環境経営代表者への内部監査状況の報告及び改善提案</li> </ul>                                                                                              |
| 部門責任者   | <ul style="list-style-type: none"> <li>各部門ごとの環境活動実施計画書・記録書を作成</li> <li>各部門ごとの環境活動実施手順書を作成</li> <li>自部門に関連する環境目標及び環境活動計画の実施及び達成状況の報告</li> <li>部門の問題点の発見、是正、予防処置、報告</li> </ul>                             |
| 全従業員    | <ul style="list-style-type: none"> <li>環境方針を理解と環境への取組の重要性を自覚</li> <li>決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加</li> <li>個人行動計画表への記入</li> </ul>                                                                         |

### ● 2026年度 活動計画

| カテゴリ  | 2026年度 新規・実行活動計画                                                                                                                                          | 関連するSDGs目標                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 水質    | <ul style="list-style-type: none"> <li>水使用量 建屋別のモニタリング</li> </ul>                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 電気・ガス | <ul style="list-style-type: none"> <li>太陽光パネル増設（生産事務所、増設棟）</li> <li>工場の蛍光灯をLED灯へ切替（製造現場）</li> <li>ボイラー排熱のリサイクル活用の準備</li> <li>電気の省エネ診断受診</li> </ul>        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 認証    | <ul style="list-style-type: none"> <li>中小企業版SBTi_目標宣言_(登録完：5月)</li> <li>スコープ3 算定（カテゴリ1～8）検討</li> <li>エコアクション21 _アドバンスト対応準備</li> <li>Jクレジット化の拡大</li> </ul> |       |
| 継続    | <ul style="list-style-type: none"> <li>2025年度までの活動アーカイブを参照</li> </ul>                                                                                     | —                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |

# 環境 – Environment EA21活動 2025年度までの活動アーカイブ

|     | 項目              | 取り組み内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 評価（年度）                                                                                                                                                                                                  |     | 項目                                                                                                           | 取り組み内容                                                                                                                                    | 評価（年度）                                                                                                                        |
|-----|-----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 全施設 | 二酸化炭素排出量（電力）の節減 | ■各施設・工場の電気消し忘れチェックシート運用<br>■機器メンテナンスの手順化・スケジュール化<br>■空気清浄機の定期清掃<br>■省エネ機器導入（太陽光パネル設置後の運用確認）<br>■太陽光パネルの発電量確認<br>■未使用時の電気機器・照明の電源確認<br>■冷蔵庫・冷凍庫の使用方法の見直し<br>■工場設備のエコ診断<br>■梅林倉庫の電力省エネ(水銀灯からLEDへ変更)<br>■ヘルシーテラス脱炭素電力契約<br>■太陽光パネル増設（2025：テラス、本社棟）<br>■オフセット付PCの導入<br>■窓の遮熱対策<br>■再エネ電気への契約更新<br>■省エネ設備_ecomoの導入 | 継続<br>継続<br>継続<br>継続<br>継続<br>継続<br>継続<br>完了(2023)<br>完了(2024)<br>完了(2024)<br>完了(2025)<br>進行中(2023～)<br>進行中(2024～)<br>進行中(2025～)<br>完了(2025)                                                            | 全施設 | 産業廃棄物の削減                                                                                                     | ■残渣の堆肥化<br>■産業廃棄物量の分別管理<br>■食品廃棄物の分別管理<br>■鉄くず廃プラの分別整理<br>■ガラス器具破損防止                                                                      | 継続<br>継続<br>継続<br>継続<br>継続                                                                                                    |
|     |                 | 水使用量（放流量）の削減                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | ■工場内の水漏れの定期点検<br>■工場用水の使用量の把握と管理<br>■工場用水・水漏れ箇所の修繕<br>■洗浄工程見直しによる節水立案・実施<br>■退出時に元栓の開閉見回り<br>■流量計のデータ収集とアナウンス<br>■本社水使用量の管理、アナウンス<br>■水質に配慮した生産活動<br>■地下水活用の高度サステナブル化（調査）                               |     |                                                                                                              | 継続<br>継続<br>継続<br>継続<br>継続<br>継続<br>継続<br>継続<br>継続<br>継続(2025～)                                                                           |                                                                                                                               |
|     | 二酸化炭素排出量（燃料）の節減 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | ■ボイラー管理<br>■蒸気漏れ定期点検及び修繕<br>■社用車の管理(走行距離、ガソリン購入費、空気圧)<br>■エコドライブ10のすすめアナウンス<br>■カーボンオフセットLNGへの切り替え<br>■脱炭素ゴミ袋への移行<br>■ヘルシーテラス脱炭素ガス調査<br>■再エネ100宣言への参画<br>■給湯器の再エネ100電氣化<br>■社用車のEV車導入<br>■EVフォークリフトへの更新 |     | 継続<br>継続<br>継続<br>継続<br>完了(2022)<br>完了(2023)<br>完了(2024)<br>完了(2024)<br>完了(2025)<br>進行中(2024～)<br>進行中(2022～) | 化学物質使用量の削減                                                                                                                                | ■エタノール購入量の管理<br>■残渣乾燥機からのエタノール回収量確認<br>■クロロホルム・アセトニトリルの使用量確認<br>■毒劇物試薬における使用量の管理<br>■移動相使用量削減に向けたHPLC分析方法の作成<br>■抽出残渣乾燥機の機種選定 |
|     |                 | 一般廃棄物の削減                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 製品についての再生品の低下                                                                                                                                                                                           |     | ■再生品の把握と管理<br>■再生品発生の原因確認                                                                                    |                                                                                                                                           | 継続<br>継続                                                                                                                      |
|     | 東京支社            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                         |     | 環境経営効率の向上（売上の向上）                                                                                             | ■新規顧客開拓<br>■国内の展示会出展・ウェビナー実施<br>■機能性表示食品受理件数の把握<br>■水漏れの点検<br>■省エネ（電気）活動                                                                  | 継続<br>継続<br>継続<br>継続<br>継続                                                                                                    |
|     |                 | 本社                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 再利用・再活用<br>地域清掃活動<br>生物多様性                                                                                                                                                                              |     |                                                                                                              | ■月一回の地域周辺美化活動の実施<br>■グリーン調達・グリーン購入<br>■植物資源廃棄物のリサイクル(コンポスト)<br>■不用品マッチングアプリ<br>■ペットボトルキャップ回収でワクチンへ<br>■新たなネットワークで環境取組み【バイオ炭】<br>■土壌づくりの進化 | 継続<br>継続<br>継続(2024～)<br>継続(2023～)<br>継続(2024～)<br>継続(2025～)<br>継続(2025～)                                                     |

年度の表記がないものは、2022年度より前から開始されている活動



## 環境 – Environment 関連法規

## 適用法令等の遵守状況

違反、訴訟等の有無：下記のように環境関連法規制等の違反はありません。また食品リサイクル法における再生利用等の実施率は80%以上を維持できています。なお関係当局からの違反等の指摘は、過去13年間ありません。  
(2026年5月31日時点)

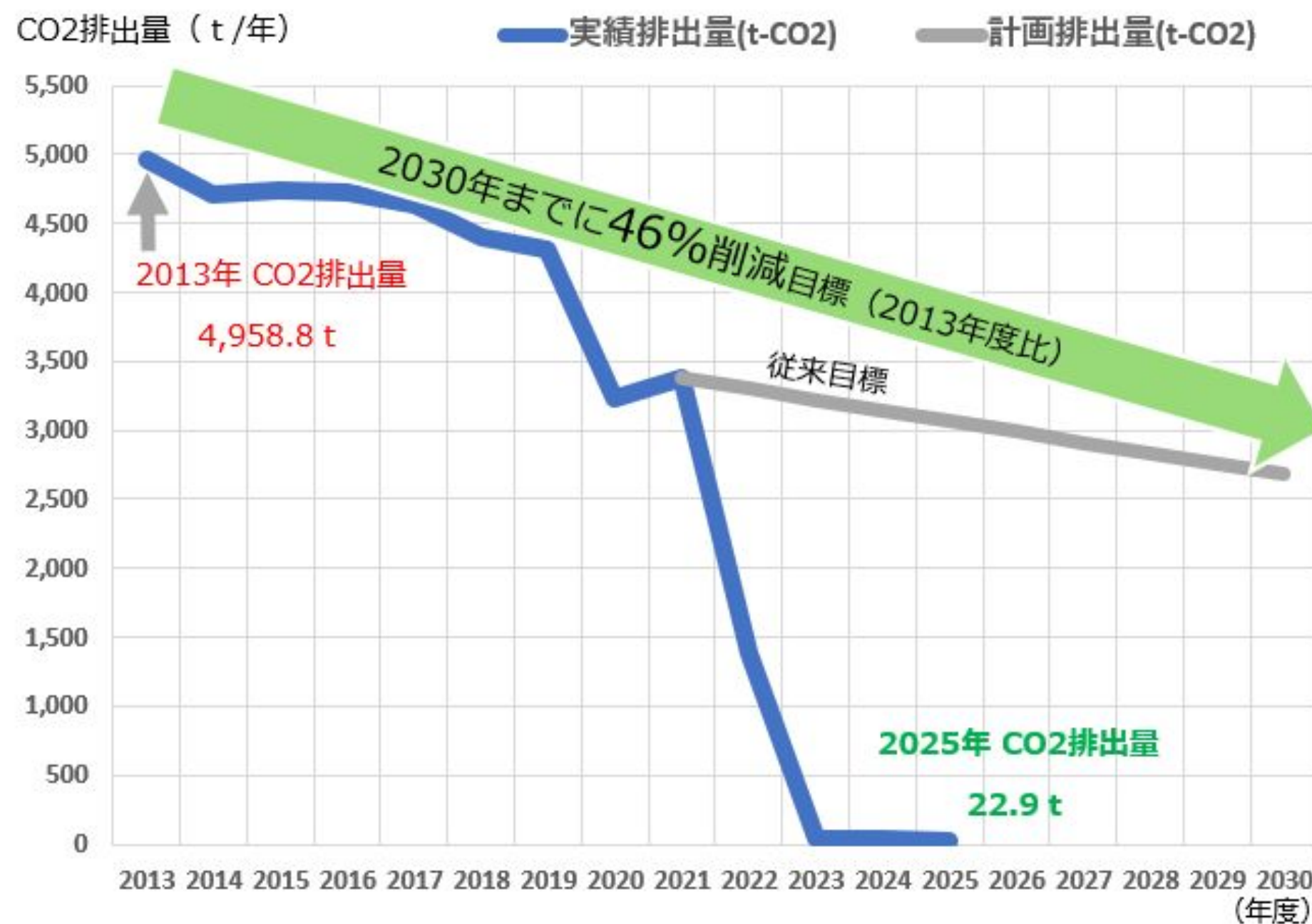
| 設備・項目 | 環境関連法規      | 届出 | 定期報告 | 定期点検 | その他  |
|-------|-------------|----|------|------|------|
| 全事業所  | 温対法         |    | ○    |      |      |
|       | 下水道法        | ○  | ○    | ○    |      |
|       | 省エネ法        | ○  | ○    |      |      |
|       | プラスチック資源循環法 |    |      | ○    |      |
|       | 家電リサイクル法    |    |      | ○    |      |
|       | 自動車リサイクル法   |    |      | ○    |      |
|       |             |    |      |      |      |
| 本社・工場 | 労働安全衛生法     |    |      | ○    | 健康診断 |
|       | 工場立地法       | ○  |      |      |      |
| 工場設備  | 騒音規制法       | ○  |      | ○    |      |
|       | 振動規制法       | ○  |      |      |      |

| 設備・項目         | 環境関連法規          | 届出 | 定期報告 | 定期点検 | その他      |
|---------------|-----------------|----|------|------|----------|
| 研究棟           | PRTR法           |    |      | ○    |          |
|               | 高圧ガス保安法         |    |      | ○    |          |
| 工場、蒸留塔、地下タンク等 | 消防法             | ○  | ○    | ○    |          |
| スプレー乾燥機、残渣乾燥機 | 悪臭防止法           | ○  |      |      |          |
| 工業用井戸         | 工業用水法           |    | ○    |      | 許可有      |
| 冷蔵、冷凍コンテナ等    | フロン排出抑制法        |    |      | ○    | 機器の調査・点検 |
| 食品廃棄物         | 食品リサイクル法        | ○  | ○    |      |          |
| ディーゼルトラック     | NOx・PM法         |    |      | ○    |          |
| 堆肥場           | 肥料取締法           | ○  |      |      |          |
| 一般及び産業廃棄物     | 廃棄物処理法          |    | ○    |      | マニフェスト管理 |
| ボイラー          | 公害防止組織法、大気汚染防止法 | ○  |      |      |          |

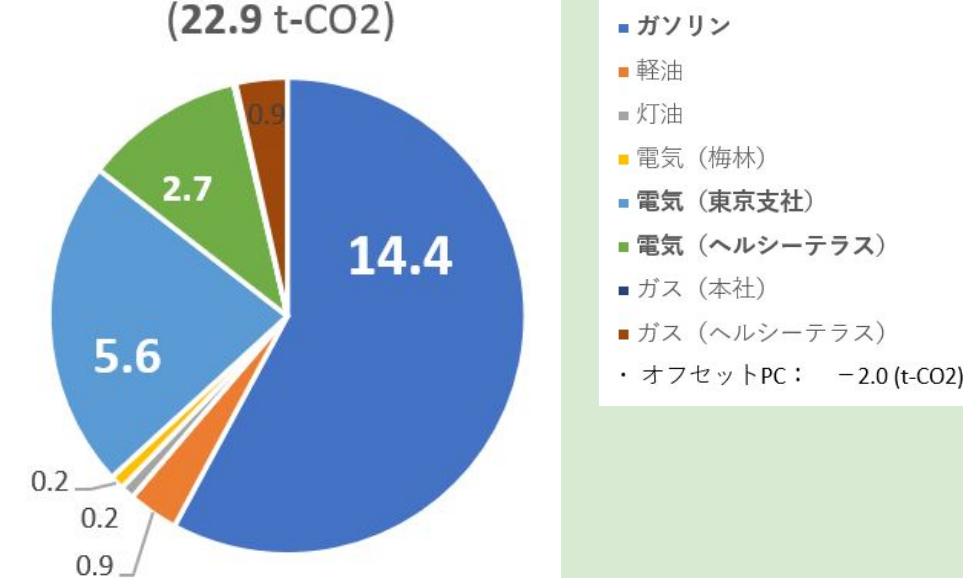
# 環境 – Environment CO2排出推移（2013年～2025年実績）

E4

## CO2排出量の実質推移と排出内訳



## 2025年度CO2排出量 (22.9 t-CO2)



2025年度CO2排出量は、実質22.9 t-CO2でした。

- ・ 2013年度削減比は、99.5%です。
  - ・ 2025年の主な排出量の内訳は、以下となりました。
- |              |              |
|--------------|--------------|
| スコープ1        |              |
| ①ガソリン        | ： 14.4 t-CO2 |
| スコープ2        |              |
| ①電気(支社)      | ： 5.6 t-CO2  |
| ②電気(ヘルシーテラス) | ： 2.7 t-CO2  |
| オフセット        | ： -2.0 t-CO2 |

## 温室効果ガスの排出量(2025年)

- ・ ロケーション基準
- スコープ1 : 16.4 t-CO2e
- スコープ2 : 3,355.5 t-CO2e
- ・ マーケット基準
- スコープ1 : 16.4 t-CO2e
- スコープ2 : 1,866.1 t-CO2e

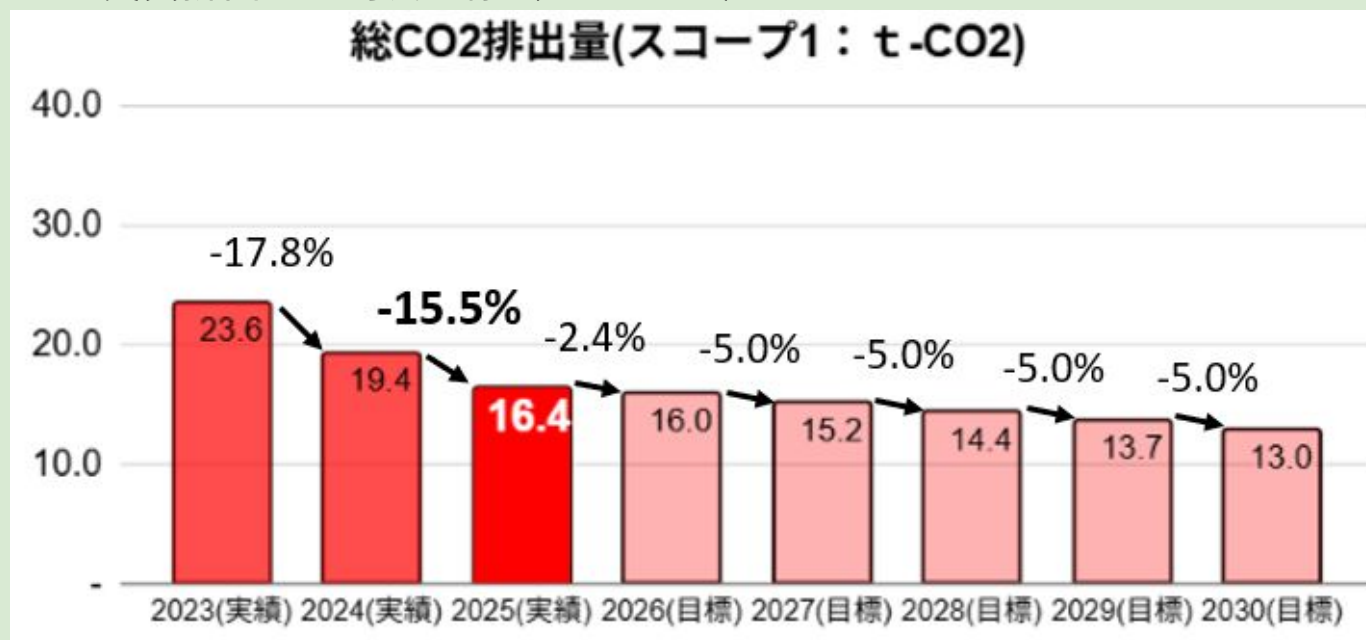


# 環境 – Environment 環境データ

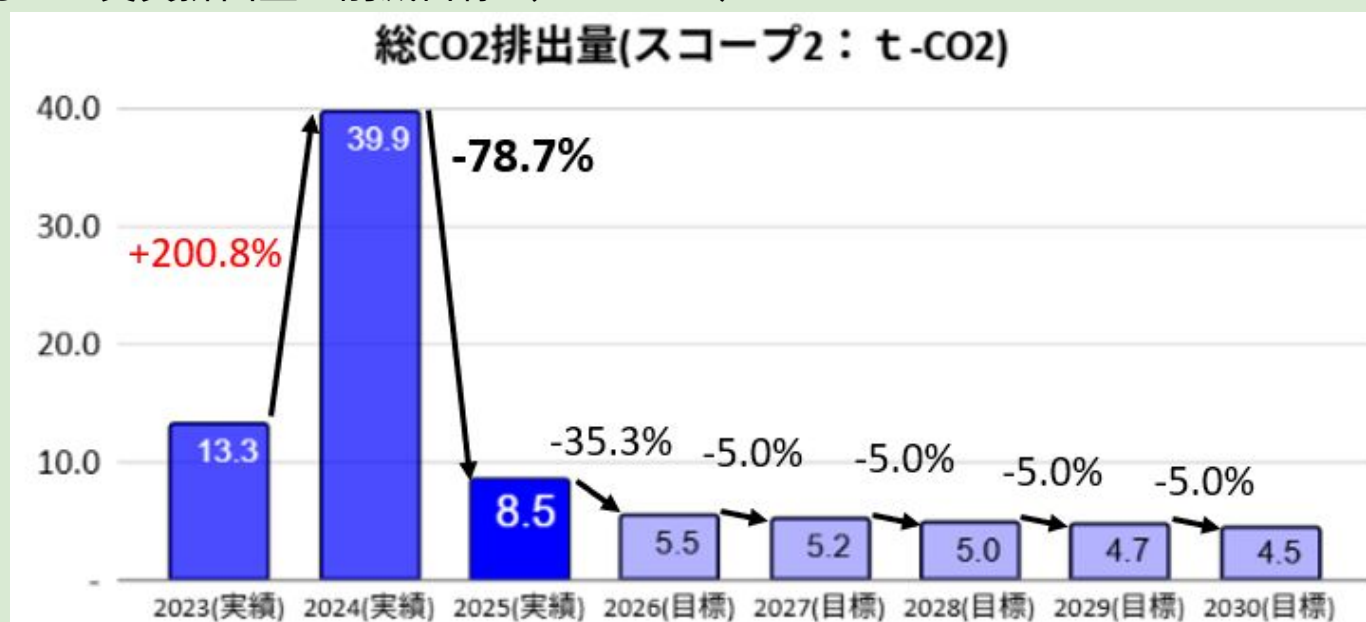
E4

## 【CO2実質排出量実績】 (2023～2030年実績・目標、2025年月別実績)

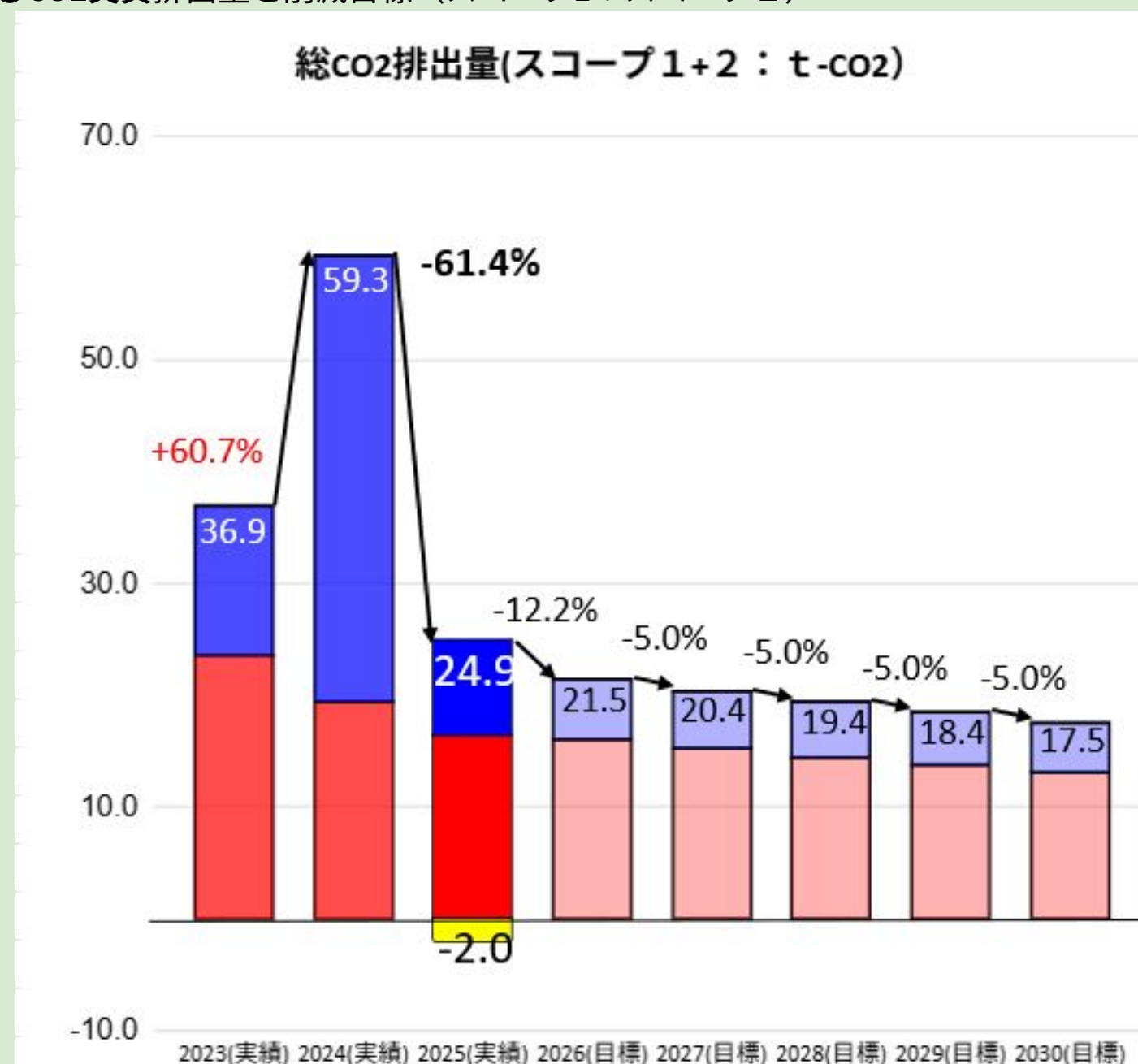
### ●CO2実質排出量と削減目標（スコープ1）



### ●CO2実質排出量と削減目標（スコープ2）



### ●CO2実質排出量と削減目標（スコープ1+スコープ2）



## 環境 – Environment 環境データ

### 中小企業版SBTi宣言【温室効果ガス排出量の削減】

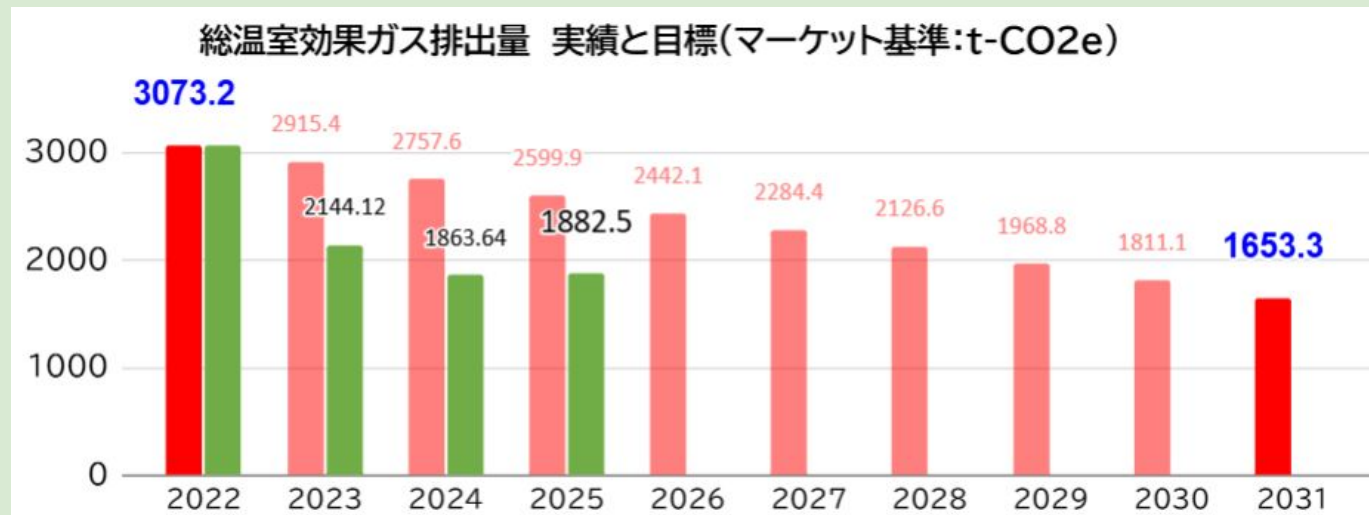
E4

ロケーション基準及び  
マーケット基準における目標と実績

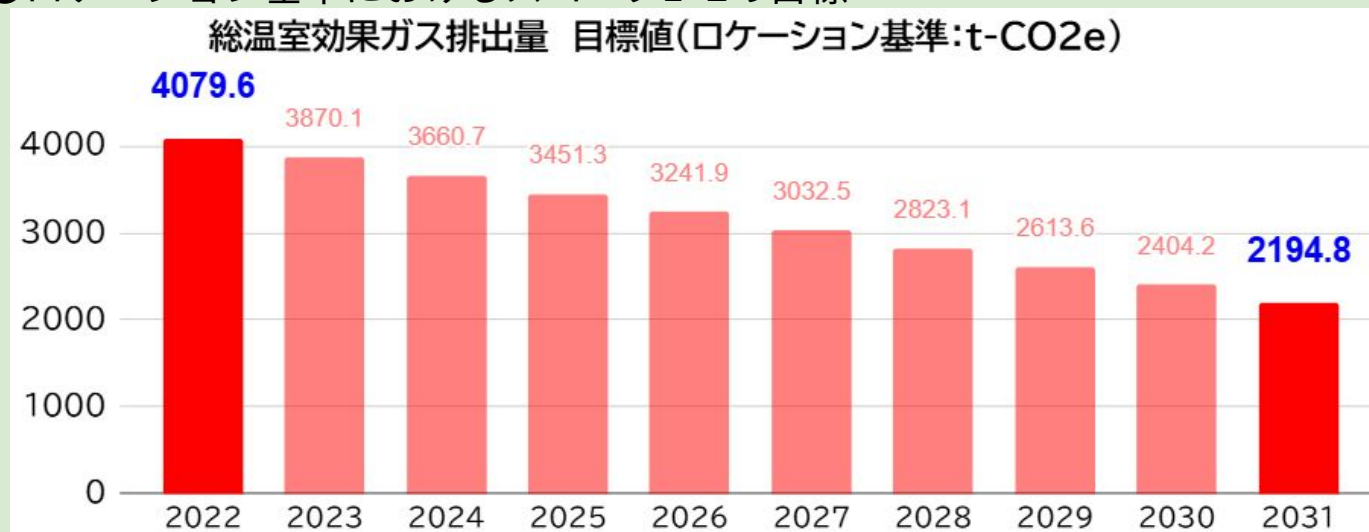
中小企業版SBTiの科学的根拠に基づく目標【2022年を基準年として2031年までに1.5°C水準の46.2%削減】宣言を行い2026年5月認定を取得しました。



#### ●マーケット基準におけるスコープ1+2の実績と目標



#### ●ロケーション基準におけるスコープ1+2の目標



係数出典：環境省 算定方法及び排出係数一覧（R5年度実績以降の排出量算定用）

E4

### 第三者算定機関による サプライチェーン温室効果ガス排出量の算出

2025年度のCO2排出量について、第3者算定機関より「温室効果ガス排出量検証」を2025年排出係数を基に7月に実施しました。

| 検証された温室効果ガス排出量 (t-CO2e) |         |
|-------------------------|---------|
| スコープ1                   | 16.4    |
| スコープ2(マーケット基準)          | 1,866.1 |
| スコープ2(ロケーション基準)         | 3,355.5 |

算定対象：本社および工場、東京支社、梅林倉庫、sakuraヘルシーテラス  
算定方法：温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度および事業者の算定手順  
係数出典：環境省 算定方法及び排出係数一覧（R5年度実績以降の排出量算定用）

### GHGプロトコル(Greenhouse Gas Protocol)

企業や組織が温室効果ガス(GHG)を正確に測定・報告するための国際的ルール

#### 算定対象ガス

NH4、N<sub>2</sub>O、PFCs、SF<sub>6</sub>、NF<sub>3</sub>、**CO<sub>2</sub>、HFCs：tokiwa取扱い有→算定対象**

|       | フロン排出量(t-CO2e) |       |       |      |
|-------|----------------|-------|-------|------|
| 年度    | 2022           | 2023  | 2024  | 2025 |
| 排出量   | 0              | 19.22 | 15.84 | 0    |
| GWP出典 | AR4            | AR4   | AR5   | AR5  |

係数出典：フロン類算定漏えい量の報告に用いる フロン類の種類及び地球温暖化係数（GWP）



# 環境 – Environment 環境データ（2025年度環境実績:電気/都市ガス/廃棄物/化学物質/水）

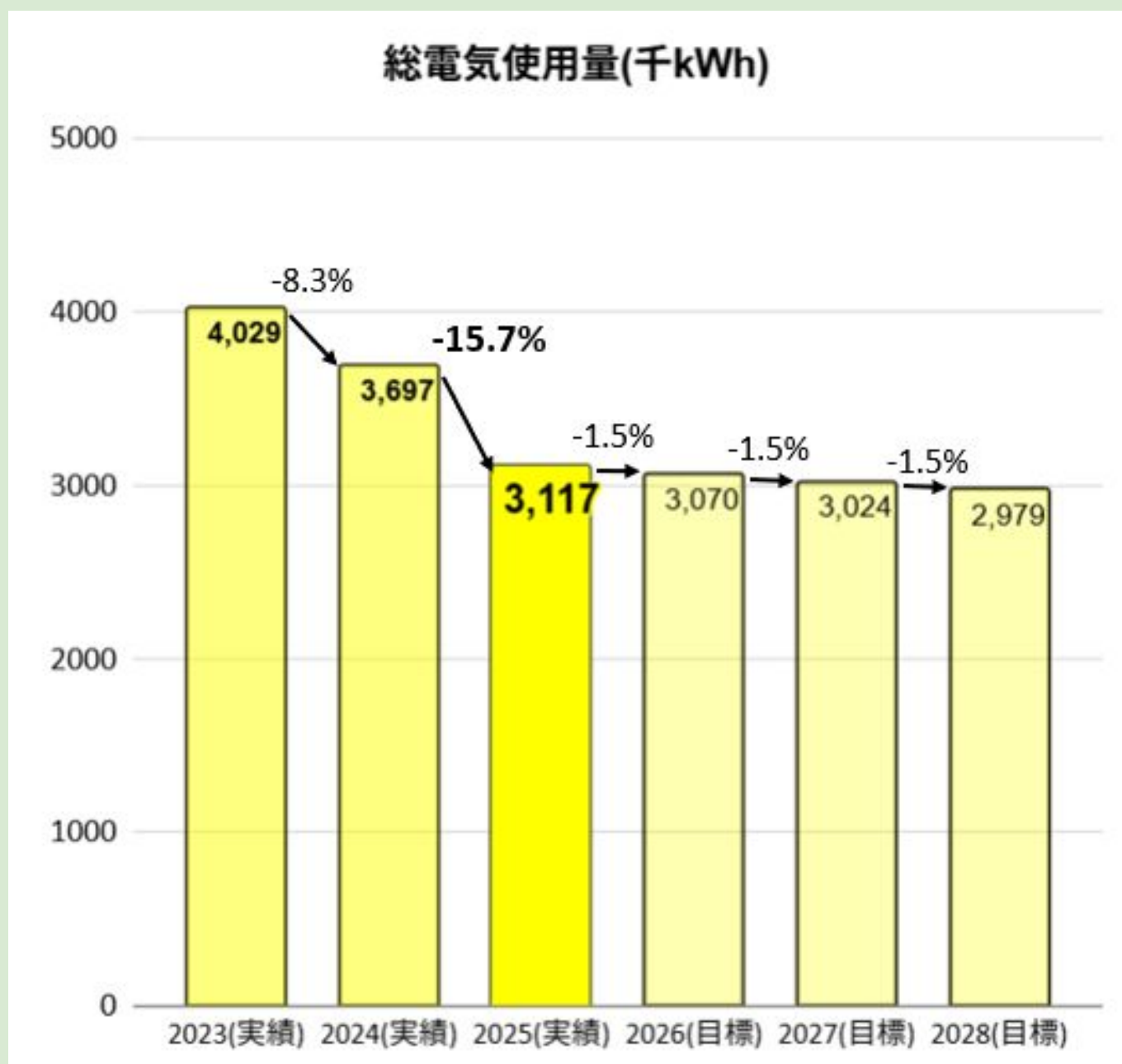
E4

環境活動計画の目標値、実績  
及びその評価(全事業所)

| 項目                  | 目標値と実績値                                                   | 評価    |
|---------------------|-----------------------------------------------------------|-------|
| 電力使用量               | 目標値： 3,565 千kWh<br>実績値： 3,117 千kWh                        | 目標達成！ |
| CO2排出量              | 目標値： 40.0 t-CO2<br>実績値： 24.5 t-CO2                        | 目標達成！ |
| 都市ガス使用量<br>(ボイラーのみ) | 目標値： 10,070 t<br>実績値： 10,618 t                            | 目標未達成 |
| 都市ガス使用量<br>(給湯器)    | 目標値： 1,006 t<br>実績値： 433 t                                | 目標達成！ |
| 一般廃棄物量              | 目標値： 27.4 t<br>実績値： 26.5 t                                | 目標達成！ |
| 食品・産業廃棄物量           | 目標値： 586 t<br>実績値： 667 t                                  | 目標未達成 |
| 化学物質使用量             | 目標値： 783,272 L<br>実績値： 784,000 L                          | 目標未達成 |
| 総排水量                | 目標値： 105,337 m <sup>3</sup><br>実績値： 94,246 m <sup>3</sup> | 目標達成！ |

E4

総電気使用量  
(2023～2025年実績、2026～2028年計画)

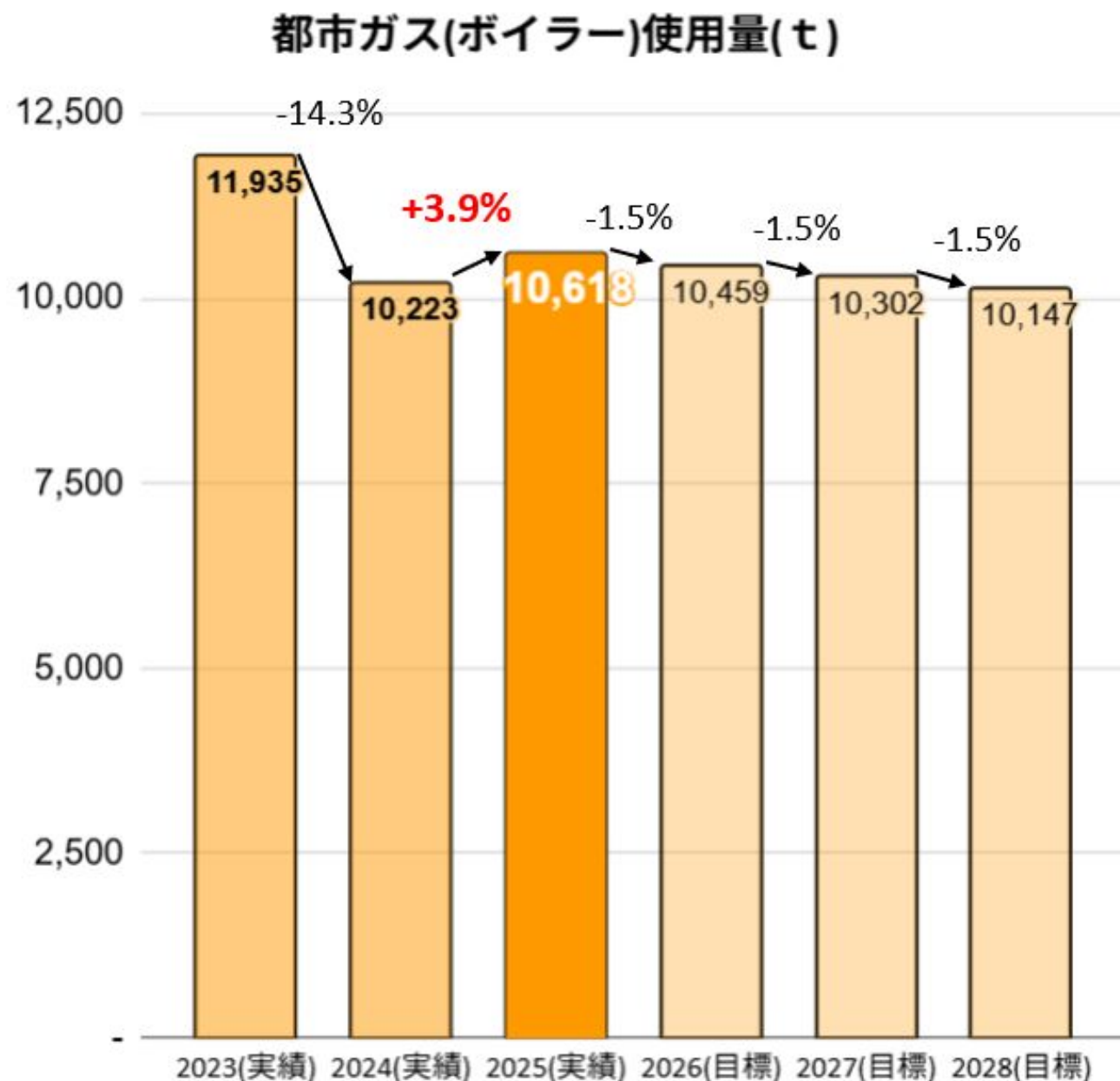


※省エネ推進、設備の効率的な稼働、太陽光パネルのメンテナンス推進により、削減計画を大きく向上できました。

## 環境 – Environment 環境データ

E4

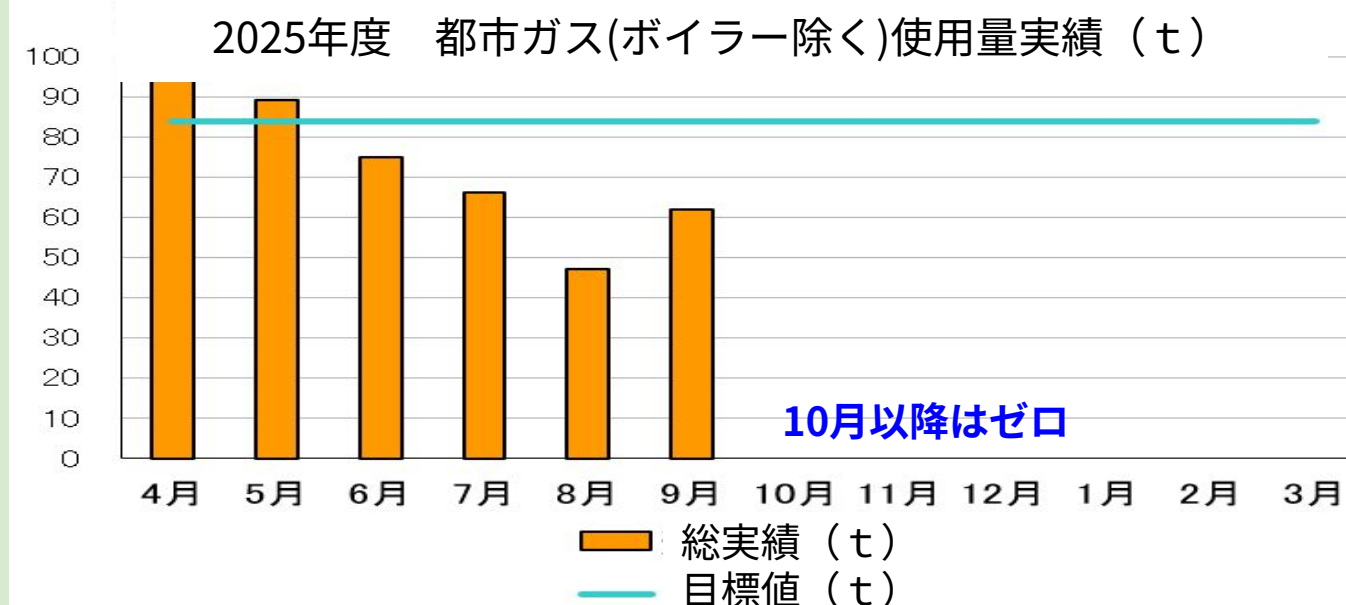
都市ガス(ボイラー)使用量  
(2023年～2025年実績、2026～2028年計画)



※2024年度にボイラーの稼働を最適化したが、今年度は使用量が増加。蒸気の省エネ診断を行い、熱ロス、配管リークの対策を進める。

E4

都市ガス(給湯器)使用量  
(2025年月別実績)



※sakuraヘルシーテラスの稼働に伴い、データを区分けし管理を進めています。10月以降、全ての都市ガス給湯器を電気給湯器へ変更しました。

E2

食品廃棄物発生量及び食品循環資源の  
再生利用量等の実施率 (2025年度実績)

【再生利用等実施率の実績値に関する内訳】 目標値:100%

- ①発生量 610.0 t
- ②発生抑制の実施量 521.2 t
- ③再生利用量 610.0 t
- ④熱回収実施量 0.0 t
- ⑤廃棄物の減少実施量 0.0 t
- ⑥再生利用以外の実施量 0.0 t
- ⑦廃棄物処分実施量 0.0 t

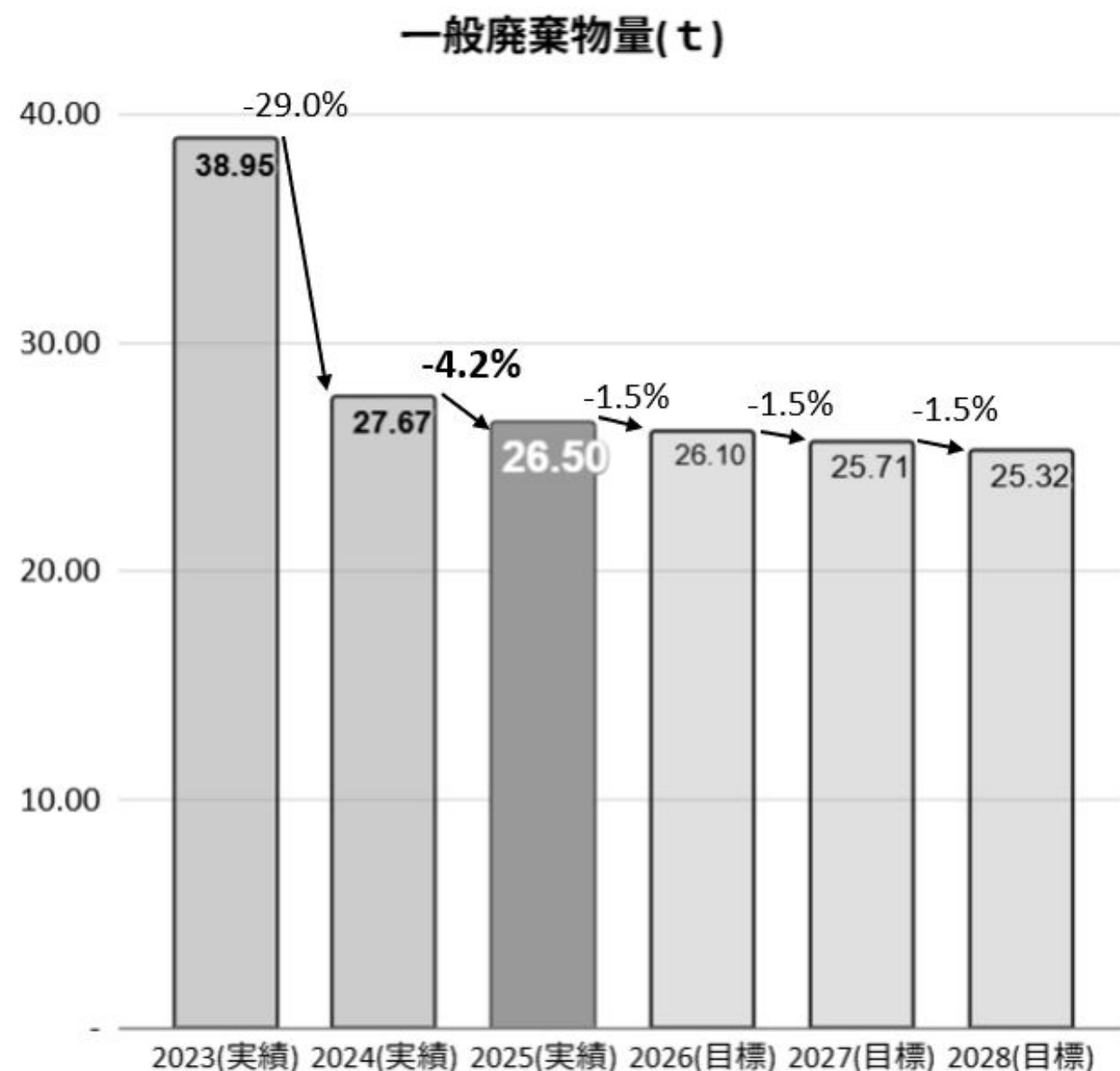
$$\begin{aligned} \text{食品循環資源の再生利用実施率(\%)} &= \frac{(\text{②}+\text{③}+\text{④}\times 0.95+\text{⑤})}{(\text{①}+\text{②})} \times 100 \\ &= 100\% \end{aligned}$$



## 環境 – Environment 環境データ

E2

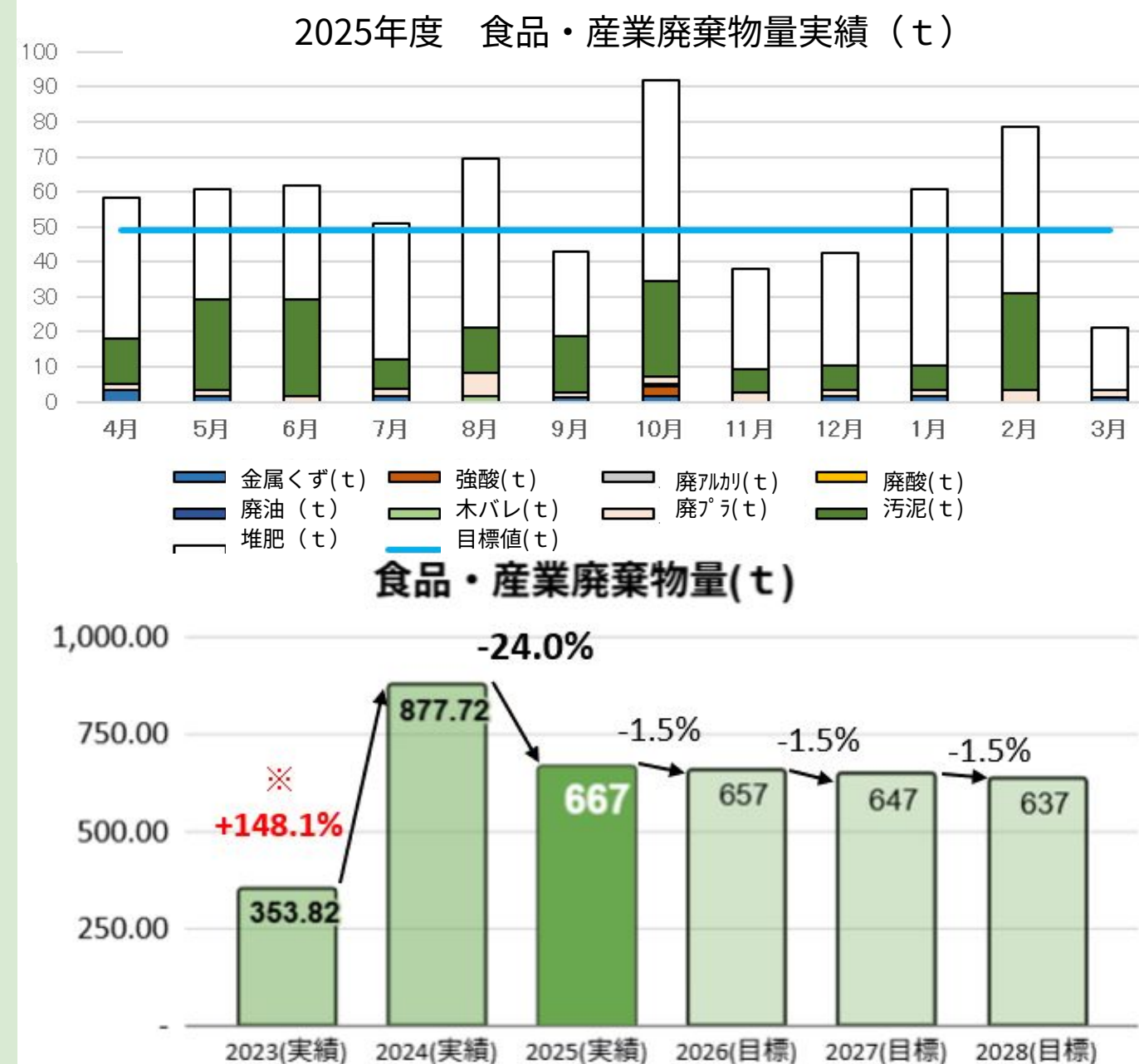
一般廃棄物量  
(2023年～2025年実績、2026～2028年計画)



※資源のリサイクルを推進し、廃棄物の低減を進めている。

E2

食品・産業廃棄物量  
(2023年～2025年実績、2026～2028年計画)

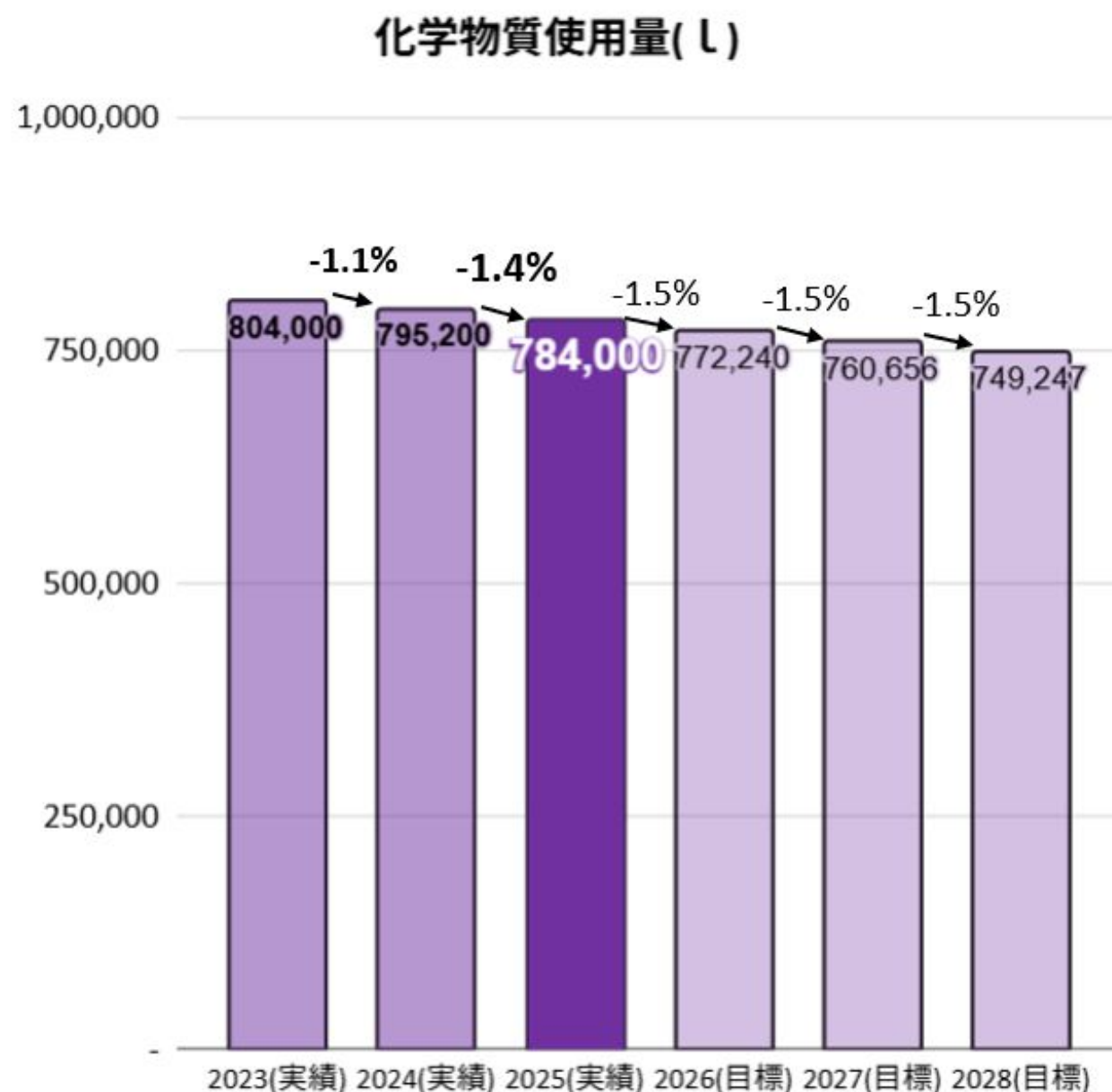


※2023年12月から堆肥、汚泥を含めすべてがマニフェスト対応となり、目標値も合計値へと修正しています。堆肥の削減を次年度計画しています。

## 環境 – Environment 環境データ

E2

化学物質使用量  
(2023年～2025年実績、2026～2028年計画)



※目標削減率の-1.5%に向け、使用量削減を計画的に推進する。

E1

水使用量  
(2023年～2025年実績、2026～2028年計画)



※使用量のモニターを、次年度以降から各製造建屋毎に推進し、更なる削減をデータ分析から進める。



## 環境 – Environment 新規の取組み

E1

### 【地下水】

サステナブルな地下水活用2025



地下水イメージ図

- ・地下水の持続可能な活用を目的として、Water Scape株式会社の支援を受け、【見えない地下水の見える化】から地下水の活用を進めました。
- ・2025年度の取り組みは、外部要因診断と解析を行い、地下水の活用について理解を深めました。
  - ①佐倉市周辺地域の地下水と社会の関わり方を歴史背景から確認、社会的な地下水の歴史背景と影響を理解。
  - ②下総層群と地質、近隣川流域の解析から、利用している地下水の流域範囲についての理解。
  - ③佐倉市の降水量データと蒸発散量から、地下水への影響が大きい時期の地下水利用について理解。
- ・サステナブルな地下水利用について、事業活動と地下水の利用について、社内の再認識をする事で、大切な水へ感謝した事業活動へ繋げる活動としました。
- ・2026年度の取り組みは、内部要因（井戸の設備仕様など）の診断を進め、安全で安心した持続可能な地下水の利用を進めて行きます。

E2

### 【生物多様性】

土壌づくりの進化



### コンポストによる 「生きた土」づくり

2025年度、ハーブ園の雑草や剪定した枝を活かしたコンポスト活動をさらに進化させ、「豊かな土壌生態系」と「環境負荷軽減」の両立に取り組みました。



- ・独自素材の配合：園内の雑草や剪定枝に、「もみガラ」と新たに「自社製バイオ炭」をプラス。これにより、土の中の微生物やミミズがより活発に動ける理想的な住処を作りました。
- ・「生きた土」の完成：微生物の力で土がふかふかになり（団粒構造化）、水はけと水もちが劇的に向上し、植物が力強く育つ環境を整えました。
- ・薬草区画への活用：この丹精込めて作った循環堆肥を、新設の「薬草区画」へ全面的に導入。ハーブ園の資源だけで、新たな命を育むサイクルを完成させました。



## 環境 – Environment 新規の取組み

E2

E3

### 【森林経営×脱炭素】

新たなネットワークで新たな環境の取り組み【バイオ炭】



森林を保全【森林経営】し、地球温暖化の防止(CO2削減の吸収を増やす)の活動を、地域【ユーカリ木こり倶楽部】と共同で進めています。放置竹林の問題は、森林破壊や河川汚染の原因をつくり、イノシシ等の害獣被害を引き起こしています。放置竹林を保全する中で発生する伐採竹は、【バイオ炭】化し地域の有機栽培農園の【株式会社柴海農園】で活用、農園での炭素(CO2)固定化を進めました。

農園で収穫できる野菜を【sakuraヘルシーテラス】の食堂で提供し、社員と地域の皆さんと共に【循環型の環境の取り組み】を【食と環境】をテーマとした体験へ進めています。

2026年度は【株式会社Jizoku】と炭素固定のJ-クレジット化を行い、森林が持つ多様性(CO2吸収、水源かんよう、生物多様性の保全など)地球環境【脱炭素の持続化】へ新たな貢献を行います。



## 環境 – Environment 新規の取組み

E4

### 【再エネ100宣言】 目標と推移



2025年4月に再エネ100宣言 RE Actionに参加しました。

再エネ100宣言 RE Actionとは、企業、自治体、教育機関、医療機関等の電力需要家が使用電力を100%再生可能エネルギーに転換する意思と行動を示すことで市場や政策を動かし、社会全体の再エネ利用100%を促進する枠組みです。

当社では、2030年までに使用電力の100%再生可能エネルギー化（カーボンニュートラル）を目標としております。  
2025年度は電気メニューを再生可能エネルギー由来の電気に切り替えを行うことで、2024年度実績の10.2%から45.6%へ大幅に増加いたしました。  
今後は、借用オフィスの電気メニューに対応して、再エネ化の検討を行い、2030年までの目標である100%再生可能エネルギー化を目指します。

E4

### 【CO2排出量：ガス→電気】 給湯器の再エネ100電気化



sakuraヘルシーテラスで使用する給湯器を、都市ガスから再エネ100%の電気へ切り替えました。  
都市ガスから再エネ電気に切り替え、CO2換算【1.9 t/年】の削減を行ないました。

都市ガス給湯器→電気エコキュート

E4

### 【CO2排出量：省エネ：電気】 省エネ設備 ecomoの導入



工場で使用する電量の使用量の低減を目的として、電力設備（キュービクル）の一部へecomоを導入しました。  
CO2換算【22.2 t/年】の削減を行ない、順次他のキュービクルへ拡大を計画しています。



## 環境 – Environment 新規の取組み

E4

### 【CO2排出量：ガソリン車をEV車】 フォークリフトをEV車へ更新



ガソリンフォークリフトを電気フォークリフトへ1台導入し切り替えました。オフセットされた電気を使用して充電することで化石燃料（ガソリン）の消費（4.8 t-CO2/年の排出量）の低減を進めています。

E4

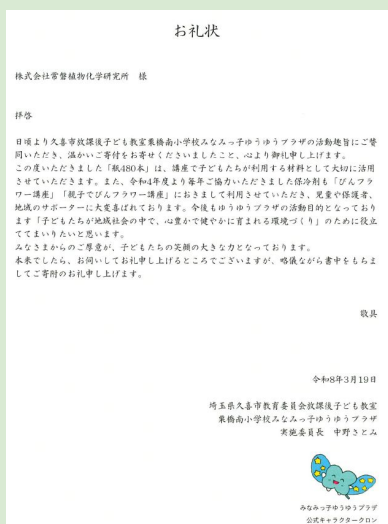
### 【再エネ推進：太陽光パネル】 sakuraヘルシーテラス＋本社棟



sakuraヘルシーテラスで使用する電気を再エネ100%化、更に、太陽光パネル【20.16kW】を設置しました、本社棟は【4.48kW】を設置し、BCP拠点として社内・地域の電気を確保する対応を進めました。

E2

### 社員の環境活動から広がる、 資源リユースと教育支援の縁

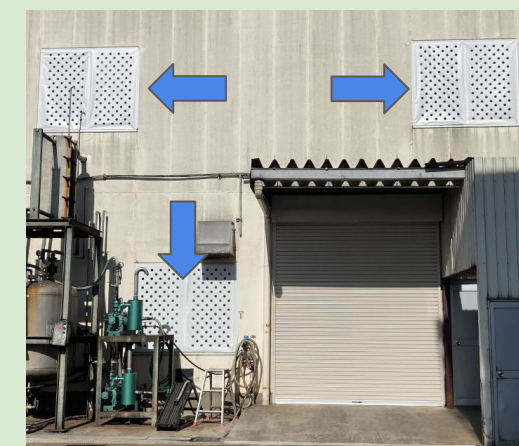


社員の環境・教育活動と、社内の『あげたい！もらいたい！みんなの不要品マッチング』の活動から、保冷剤や空き瓶を埼玉県久喜市の「みなみっ子ゆうゆうプラザ」様に継続的に寄贈し、本来廃棄される資材を放課後こども教室の教材に再利用いただきました。人の繋がりを大切にしながら、環境活動と次世代のこどもたちの笑顔に繋がる社会貢献は今後も続けてまいります。今回この活動へ心温まるお礼状をいただきましたので、この場を借りてご紹介いたします。

埼玉県久喜市教育委員会放課後子ども教室 栗橋南小学校みなみっ子ゆうゆうプラザ  
<https://minamikko.sakuraweb.com/>

E4

### 【CO2排出量：暑さ対策】 窓の遮熱対策



窓の遮熱対策（約5℃～8℃低減）として、室内の空調温度の設定と照明の省エネを進めました。遮熱ブラインドは樹脂製で熱を持たない、明るさを確保したデザイン仕様、西日の強い窓には、ドット遮熱シートを貼り、遮熱と明るさの両立を進めました。





## 環境 – Environment 受賞

### エコアクション21オブザイヤー2025 2度目の環境大臣賞&銀賞受賞



エコアクション21オブザイヤーは、環境経営レポート及び社会課題解決に繋がる取り組みを顕彰する事で、脱炭素の社会を実現し、SDGsの達成に向けた多様な取り組みを国内に広く発信するとともに、環境の取り組みを加速させることを目的として、一般社団法人持続推進機構が行っているアワードです。

### 環境管理責任者による評価と見直し



2025年度の環境保全活動におきましては、事業成長に伴う環境負荷の増大を抑制し、CO2排出量を「2013年度比99%削減」という高い水準で維持することを目標に掲げ、諸施策を推進してまいりました。

具体的なCO2削減策としては、各棟照明のLED化、電動フォークリフトへの段階的な更新、電力設備への省エネ機器導入などとなり、計画的な設備投資を計画・実行しております。

また、「sakuraヘルシーテラス」は、給湯設備の都市ガスから電化によるエネルギー源の集約を図り、本年3月は、太陽光発電設備を新設し、地球温暖化対策への取り組みを一段と加速させました。

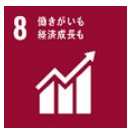
一方、廃棄物の有効活用につきましては、継続的な施策を講じているものの、現時点では目標値に達しておらず、これを今後の重要課題と捉え、一層のプロセス改善に取り組む所存です。

本年度の新たな対応は、中小企業版SBTiの科学的根拠に基づく目標【2022年を基準年として2031年には1.5℃水準の46.2%以上の削減】宣言を行い審査を進め、2026年5月に登録されました。

更に環境の取り組みとして、竹林保全から発生するは伐採竹を活用した「バイオ炭づくりから環境への取り組み」活動を始動いたしました。これは地域と連携した循環型社会の構築に向けた極めて重要なステップであり、今後の事業貢献に大いに期待を寄せております。



## 社会 – Social 目標と実績

| No | 側面       | インパクト<br>カテゴリ | 取り組み<br>内容                   | 2030年度までのKPI・目標                                                                                                                                                  | 2025年度 実績                                                                                                                                                                                                                       | 関連する<br>SDGs目標                                                                                                                                                              |
|----|----------|---------------|------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| S1 | 社会<br>経済 | 保健・衛生<br>経済収束 | 健康な社<br>会づくり                 | 2030年度までに健康に配慮したオリ<br>ジナル商品2品目を開発・提供する                                                                                                                           | マテ抽出物「MATESOL」（マテソール）を2024年4月に上市。2025年2<br>月に「内臓脂肪の減少に役立つ」で機能性表示食品対応化。<br>（2025年度時点で商品を新規開発・提供。次のオリジナル商品開発中）                                                                                                                    |                                                                                          |
| S2 | 社会       | 保健・衛生         | 従業員の<br>健康増進                 | ①2025年度にヘルシーテラスの利用<br>割合を80%とする<br>②健康経営優良法人を維持する                                                                                                                | ①100%※で達成。<br>※社員の年間食数/年間勤務日数×社員数－有給取得日数で算出<br>②健康経営優良法人2026 ネクストブライト1000の認定を取得。                                                                                                                                                |                                                                                          |
| S3 | 社会       | 教育            | 教育活動<br>への貢献<br>次世代人<br>材の育成 | ①佐倉サイエンスアカデミー（研究者<br>向け）を年1回開講する<br>②佐倉アカデミアを含む小中高生向け<br>講義を年3回実施する<br>③2024年以降、年1回 松尾仁賞（植<br>物化学シンポジウム）表彰を実施する                                                  | ①2025年9月23日に第5回佐倉サイエンスアカデミーを開催。<br>②教育CSRを5回実施<br>5月：佐倉市立南部中学校 ハーブ園見学<br>6月：佐倉市立根郷小学校 ハーブ園見学<br>7月：千葉県立佐倉高等学校 佐倉藩サイエンスフェスティバルに参加<br>9月：千葉県立佐倉高等学校 実験講座「佐倉アクティブ」<br>1月：佐倉市立臼井南中学校 職業セミナー<br>③2025年11月28日に植物化学シンポジウム内で第3回松尾仁賞を実施。 |                                                                                        |
| S4 | 社会       | 雇用            | 働きやすい<br>職場環境<br>づくり         | 2026年度までにユースエール認定を<br>取得する                                                                                                                                       | 2025年度は認定要件を満たしていないため、未申請。<br>→2026年度の申請を目指すも、2025年度実績で満たさない認定要件があ<br>るため、2030年度の取得を目指す                                                                                                                                         |                                                                                        |
| S5 | 社会       | 雇用            | 働きやすい<br>職場環境<br>づくり         | 2030年度までに<br>①時間外労働の削減<br>残業時間 10時間未満/月<br>（直近11カ月の平均 15.1時間/月）<br>②有給休暇取得率の向上<br>付与された有給休暇日数の70%取得<br>した人の割合70%以上（直近11カ月<br>の平均 付与された有給休暇日数の<br>70%取得した人の割合57%） | ①時間外労働時間<br>平均 22.2時間/月<br>②有給休暇付与日数の70%以上取得者の割合<br>55%                                                                                                                                                                         |                                                                                        |
| S6 | 経済       | 経済収束          | 地域社会<br>への貢献                 | 本社・自社工場を災害時等のBCP拠点<br>化し、2030年度までに拠点としての<br>体制を整備する                                                                                                              | ヘルシーテラスの屋根に太陽光パネルを設置し、避難場所として<br>機能できるようにした。                                                                                                                                                                                    |   |

# 社会 – Social 植物化学の発展と健康な社会づくり

S1

## 健康経営方針

tokiwa  
PHYTOCHEMICAL

### 株式会社常磐植物化学研究所 健康経営方針

私たちは、「shine の幸福と社会の発展に貢献する」ことを経営理念に掲げており、shine の健康こそが shine の幸福と全事業におけるサステナビリティ活動の根幹であると考えます。  
そこで、独自の健康経営として「waku-waku（ワクワク）健康宣言」を実施し、shine の健康増進に努めます。

#### waku-waku（ワクワク）健康宣言

1. 感謝とワクワク  
人、社会、そして植物に生かされていることに感謝し、ワクワクを大事にします。
2. ベジファーストと噛む習慣  
sakura ヘルシーテラスにて野菜を中心とした健康的な昼食を提供します。  
300 グラム（キャベツ 1/4 玉相当）以上の野菜や果物の摂取と、野菜を先に食べること（ベジファースト）及びよく噛んで食べることを推奨します。
3. 適度な運動習慣  
毎朝のラジオ体操の実施と、SAKURA スポーツパークを活用したイベント、部活動の実施を推進します。
4. 「健康経営サブリ」の提供  
「健康経営サブリ」を通じ、健康増進の機会を提供します。
5. 健康的な知識・意識の向上  
健康習慣についての情報提供と、学習の機会を定期的に設けます。
6. 健康診断の実施と人間ドックの推奨  
健康診断の検査項目を充実させ、さらに、人間ドックの受診を推奨します。  
また、ストレスチェック実施後のフィードバックを行います。

2026年4月1日  
株式会社常磐植物化学研究所  
代表取締役社長

立崎 仁

| 営業本部 | R&D 本部 | 管理本部 | 生産本部 | DX 本部 | 品質保証室 | 経営企画室 |
|------|--------|------|------|-------|-------|-------|
|      |        |      |      |       |       |       |

S1

## 「VENETRON」 2025 NIE New Ingredient Awards 第2位

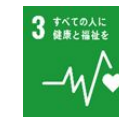


ラフマ抽出物「VENETRON」が、米国業界誌『Nutrition Industry Executive（NIE）』主催の「2025 NIE New Ingredient Awards」で、「New Science」部門の第2位を受賞しました。

多機能性、少量で効果を発揮する点、幅広い製品形態に対応できる汎用性についても、高い評価を得ています。

S1

## 「SIRTMAX」 Natural Choice Awards Ingredient Edition



「SIRTMAX」が、アジアの機能性食品アワード「Functional Foods for Wellness Summit Awards 2026（以下、FFWS 2026）」において、Healthy Aging Ingredient（ヘルシーエイジング素材）部門で受賞しました。

FFWSは、アジア全域の機能性表示食品、サプリメント、栄養学分野において、卓越した革新性と多大な貢献を示した企業や製品を表彰する権威あるプログラムです。



## 社会 – Social 健康な社会づくり

S1

### マルシェ開催



年に数回、ウェルビーイング施設を会場にマルシェを開催しています。キッチンカーやハンドメイド、ワークショップの出店者が多数集まり、約6,000人のお客様に会場いただいています。

2025年度は4月、6月、9月、11月、2月の合計5回開催しました。

S2

### 健康経営サプリの展開



従業員の健康と地域貢献を目指し、自社素材配合のサプリを社員や地域に提供する「健康経営サプリ」を実施しています。

その一環として「sakuraヘルシーテラス」にて、内臓脂肪を減少させるtokiwa独自の機能性表示食品対応素材「マテソール」を配合した「マテドリンク」を無料展開しました。植物化学の知見を活かした日常的な健康サポートを通じて、社員および地域社会の健やかなライフスタイルとウェルビーイングの実現に寄与しています。

S2

### 社員食堂のリニューアル



2024年4月、本社隣に社員食堂としてオープンしたウェルビーイング施設「sakuraヘルシーテラス」。

2025年11月より、印西市で有機農家として活躍し、当社製竹炭を使用する「株式会社柴海農園」直営のレストランにリニューアルしました。農園直送で鮮度抜群の有機野菜が堪能できる場所として、社内外の健康を支えています。ナチュラルな雰囲気の中で、隣接する佐倉ハーブ園の四季折々の景観が見えるリラックス空間が特徴です。



sakuraヘルシーテラス



柴海農園  
SHIBAKAI Nouen





## 社会 – Social 健康増進と次世代人材の育成

S2

### ラジオ体操指導員認定取得推奨 (ラジオ体操セミナー、ラジオ体操優良団体等表彰)



毎朝のラジオ体操を50年以上継続しているほか、従業員のラジオ体操指導員認定の取得を推奨しております。2025年8月には全国ラジオ体操連盟の講師をお招きして「ラジオ体操みんなの体操講習会」を開催しました。

また、2名の社員が1級ラジオ体操指導士を、1名の社員が2級ラジオ体操指導士を取得しました。社内における正しいラジオ体操の普及に貢献しています。



左) ラジオ体操指導員認定バッジ

中) 2級ラジオ体操指導士バッジ 右) 1級ラジオ体操指導士バッジ

S3

### 健康まちづくりプロジェクトへの協賛



一般社団法人Spiceが、規模の大小問わずアクションを起こせる市民を増やしたいという理念のもと、佐倉南高校定時制夜間部の生徒たちと共に、2023年10月から始まったプロジェクトに協賛しました。当社ロゴ記載の足跡型の蛍光パネルを設置、2025年度にはお披露目イベントが開催されました。

S2

### スポンサー協力



ジュニアラグビークラブ「佐倉ビーグルス」、3X3プロバスケットチーム「北総ライノス」のスポンサーを務めており、スクールの開催場所としてSAKURAスポーツパークを提供しています。クラブチームの活動を通して子供たちの成長と地域活性に貢献しています。

また、佐倉出身のシンガーソングライター「ゆうなみ」さんのコンサートを「sakuraヘルシーテラス」で開催するなど、地域で活躍する方の活動も応援しています。

S3

### 高大連携活動カリタス女子中学高等学校



2023年から2年間にわたり行われていた日本薬科大学・カリタス女子中学高等学校の間で行われていた高大連携活動（植物成分配合の「のど飴」の開発）に、当社が協力いたしました。



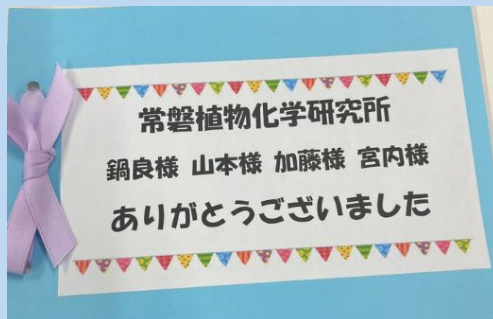
2025年度には、当社素材のジンジャー抽出物「ジンジャーウォーマー」とTW-KK（桔梗湯エキス）が配合されたのど飴「Gingembre Bon Bon（ジンジャブル ボンボン）」が発売されました。



## 社会 – Social 次世代人材の育成

S3

### ハーブ園見学



2025年度、2校のCSRでは当社運営の「佐倉ハーブ園」での校外学習を実施しました。佐倉ハーブ園を回りながら、見て、触って、嗅いで、五感を使って植物の特徴を学んでいただきました。

S3

### 佐倉藩サイエンスフェスティバル



2025年7月31日に開催された千葉県立佐倉高校主催の体験型科学実験イベントに、当社が参加しました。

「植物にそんな効果が…!? 使ってみます!」など小学生・中学生・高校生、一般の方々と幅広い方々に、植物の香り・効果を体験いただきました。

S3

### 成田西陵高校への研究協力

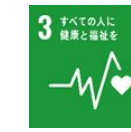


成田西陵高校が取り組む「日本茜復活プロジェクト」に協力し、日本茜の根の成分分析と生徒さんへのアドバイスや施設見学を実施しました。

2024年にはプロジェクトが千葉県学校農業クラブ連盟研究発表会で1位入賞するなど、様々な高い評価を受け、2027年開催のGREEN×EXPO ガーデン制作展示をプロデュースするチームに選定されています。  
当社ならではの技術を活用し、次世代のイノベーション人材育成に貢献しています。

S4

### ユースエール認定 チャレンジ中



働きやすい職場環境づくりを目的として2026年度に認定申請を目標に推進してきました。

認定に必要な19項目の現状は、13項目が達成し6項目が未達成の状況です。

未達成の1項目は、正社員の月平均所定外労働時間が20時間以下に対して22.2時間となっている点です。今後は働き方の分析と業務のDX化を加速し、次年度以降に向け働きやすい職場へ進めていく計画です。

他、未達成の5項目については、社内の仕組みを整理し、公開の準備を進めて参ります。

# 社会 – Social 職場環境づくり

S5

## 労働安全衛生方針

### 株式会社常磐植物化学研究所 労働安全衛生方針

労働安全衛生スローガン  
安全なしに、幸福なし。 衛生なしに、幸運なし。

- より安全・安心な労働環境をつくります  
労働災害があれば、事業が如何に順調であろうと幸福などあり得ません。日々労働環境を見直し、安全・安心な相談のできる労働環境をつくります。
- より健康的な労働環境をつくります  
健康的な労働環境をつくり、shine の健康増進をはかることで、お客様からの信用・信頼につながる、幸せ・めぐりあわせを感じる職場をつくります。
- 職場環境を改善し、働きやすい職場をめざします  
リスクアセスメントの効果的な運用と実体験から得た反省により、職場に潜む危険要因を特定し、改善することで、安心して働くことができる職場環境づくりに努めます。
- 安全衛生教育及び啓発活動を通じて、意識の向上に努めます  
当社で働く全ての人に適切な教育や啓発活動を行うとともに、労働安全衛生意識を高め、全員で災害防止と健康増進に取り組めます。
- 法令を遵守します  
労働安全衛生に係る法令を遵守するとともに、必要な社内規程を整備・更新し、危険に対する高い感性を持ち、安全行動を積極的に行う人材を育てます。
- 継続的な見直しと改善を行います  
労働安全衛生リスクを低減するための目標を設定して計画的に活動し、適宜見直しを行うことで、労働安全衛生活動の継続的改善に努めます。

2026年4月1日  
株式会社常磐植物化学研究所  
代表取締役社長

五崎 仁

| 営業本部 | R&BD 本部 | 管理本部 | 生産本部 | DX 本部 | 品質保証室 | 経営企画室 |
|------|---------|------|------|-------|-------|-------|
|      |         |      |      |       |       |       |

S5

## 労働条件



社員が心身ともに健康で、最大限の能力を発揮できる労働環境の整備を重要課題と捉えています。

フレックスタイム制度の導入により柔軟な働き方を支援するとともに、産休・育休およびパパ育休の取得率は100%を達成しました。有給休暇の消化率は55%（付与された有給休暇の日数の70%取得した人の割合）に留まりましたが、今後も取得しやすい環境づくりを推進します。

また、作業環境の継続的な改善に加え、新たに化学物質取り扱い規定を制定し、法令遵守と安全管理を徹底しています。今後も、より安全で働きがいのある職場環境の追求に努めてまいります。

S5

## 労働時間と公正な賃金



適切な労働時間管理と公正な賃金体系の構築を推進しています。2025年度の実績として、36協定の特別条項（年間500時間）に対し、非管理職3名の超過が発生いたしました。この結果を厳粛に受け止め、次年度は勤怠モニタリングの強化と業務の平準化を徹底し、再発防止を確実なものいたします。

賃金については、人的資本への投資を目的とした中長期のベースアップ計画を制定し、当初の予定通り達成する見込みです。成果の着実な還元による組織活力の向上を図ります。



# 社会 – Social 人権の取り組み

S5

## 人権方針

tokiwa  
PHYTOCHEMICAL

### 株式会社常磐植物化学研究所 人権方針

私たちは、「生かされる」会社・人を目指しています。自然と植物のために、社会と人のために、何ができるかを考え、問い続けて生きています。「for me」ではなく、「for you」を常に大事に考えることで、明るく、愉しく、思いやりのある・差別のない社会、人間社会になると信じています。

常磐植物化学研究所は、経営理念・行動規範、および国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」（以下、指導原則という）に従い、本方針を定め、日本と地元地域社会を牽引する植物化学（ファイトケミカル）の専門企業として、「人権を尊重する責任を果たす」ことを宣言し、実践に努めます。

本方針の適応範囲は、当社事業に関係するステークホルダーとし、shine とそのご家族、地域社会の皆様、お取引先様、株主様、関連会社などを含みます。

- 1. 人間大事**  
経営理念研修・経営で培ってきた「人間大事の精神」を生かし、人権尊重の心を持ち続けます。人権への悪影響、人権侵害の恐れ、助長が確認された際は、速やかにそれに対処し、また人権への悪影響が無いよう予防に努めます。特に、社内で生じたハラスメントについては、厳正に対処します。
- 2. 人権デュー・ディリジェンス（人権DD）の実施**  
取締役会直轄の人権DD委員会、責任者、担当者を設け、指導原則に従い、社内外における人権への悪影響の特定、予防・軽減、対応と実績調査、外部への情報開示に努めます。
- 3. 救済メカニズムの構築**  
人権侵害への救済の仕組みとして、社内に人権救済目安箱の設置、社外からの問合せに人権項目を加え、社内外で確認された人権侵害に対し、早期かつ直接的に是正していくことを努めます。
- 4. 社内教育および社会啓蒙**  
人権への悪影響、人権侵害について、年に1回以上教育の機会を設けます。また、社会啓蒙として、社外セミナー・広報媒体等で、人権を尊重する企業の責任について言及し、人間大事と人権尊重の啓蒙に努めます。
- 5. 有識者、ステークホルダーとの対話と協議**  
指導原則に基づき、有識者、ステークホルダーとの対話を大切にしながら、定期的に協議を重ねていきます。人権の尊重と保護に対して責任を持って取り組むべく、あらゆる指摘に速やかに対処し、本方針を改定して参ります。

2026年4月1日  
株式会社常磐植物化学研究所  
代表取締役社長

立崎 仁

| 営業本部 | R&BD 本部 | 管理本部 | 生産本部 | DX 本部 | 品質保証室 | 経営企画室 |
|------|---------|------|------|-------|-------|-------|
|      |         |      |      |       |       |       |

S5

## 啓発活動



当社は、経営理念・行動規範および国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」に従い「人権方針」を定めています。本方針に掲げる「人権教育の年1回以上の実施」を具体化するため、毎年「人権セミナー」を開催しています。

2025年度は「SRHR（性と生殖に関する健康と権利）」をテーマに、公益財団法人ジョイセフの森田由紀氏を招聘しました。このセミナーを通じて、健康課題を「個人の我慢」にせず組織で支える重要性を共有し、結果として、性別や年齢を問わず利用可能な「SRHR休暇」の導入に至りました。

S5

## 差別・ハラスメントの防止



全従業員が安心して能力を発揮できる職場環境を守るため、あらゆるハラスメントの防止を徹底しています。社内相談窓口を設置し、迅速かつ適切な対応ができる体制を整えています。

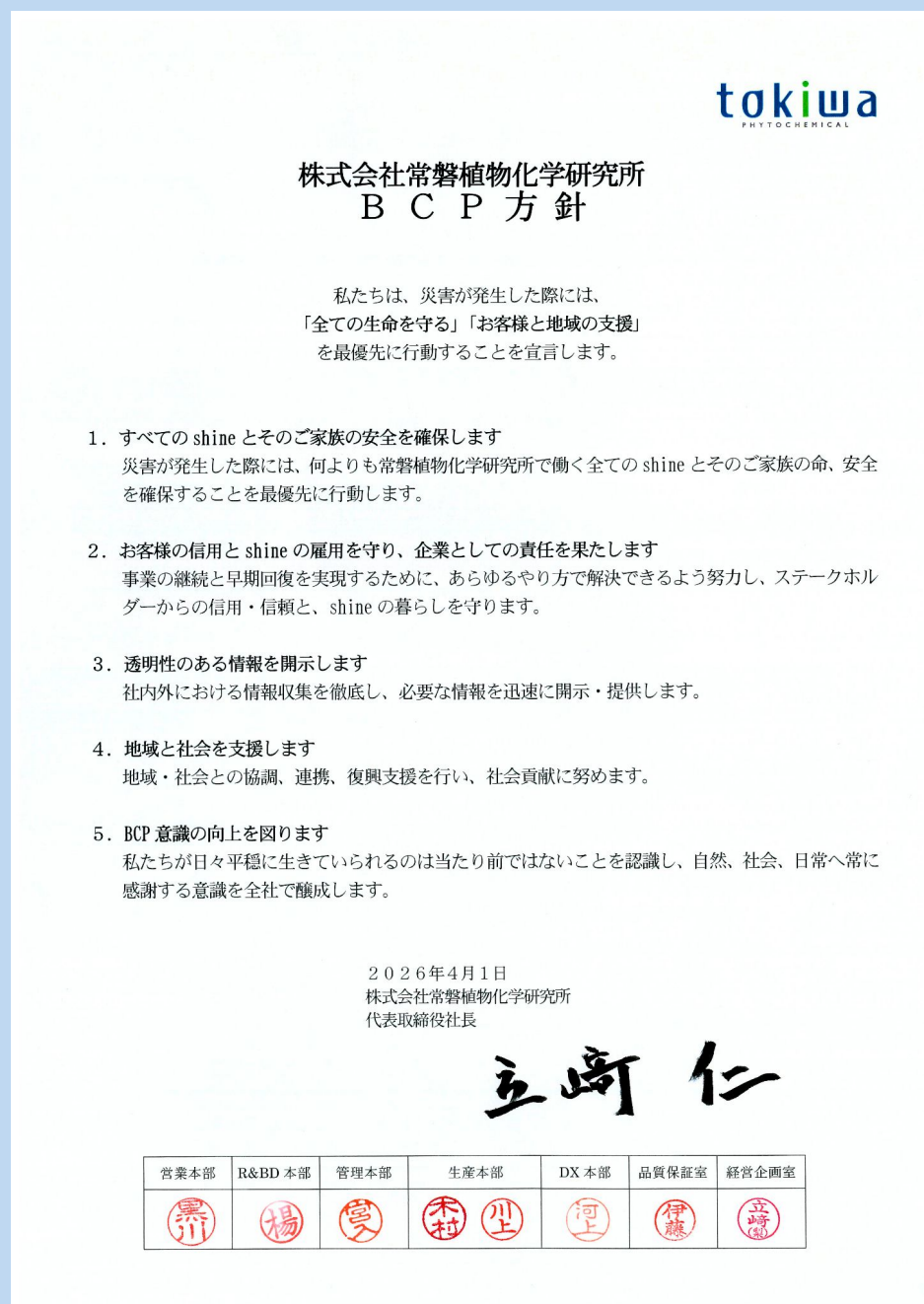
2025年度は、役員を含む全社員を対象としたハラスメント研修を実施しました。継続的な実態把握と教育を通じて、心理的安全性の高い職場風土の醸成と人権意識の向上に努めています。

また、年に2回、従業員満足度アンケートを実施し、従業員の様々な意見を吸い上げています。吸い上げられた課題に対する施策は、役員を含めて検討され、実行されています。

# 社会 – Social BCP方針・人権の取り組み

S5

## BCP方針



株式会社常磐植物化学研究所  
B C P 方針

私たちは、災害が発生した際には、  
「全ての生命を守る」「お客様と地域の支援」  
を最優先に行動することを宣言します。

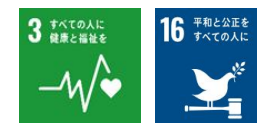
- すべての shine とそのご家族の安全を確保します  
災害が発生した際には、何よりも常磐植物化学研究所で働く全ての shine とそのご家族の命、安全を確保することを最優先に行動します。
- お客様の信用と shine の雇用を守り、企業としての責任を果たします  
事業の継続と早期回復を実現するために、あらゆるやり方で解決できるよう努力し、ステークホルダーからの信用・信頼と、shine の暮らしを守ります。
- 透明性のある情報を開示します  
社内外における情報収集を徹底し、必要な情報を迅速に開示・提供します。
- 地域と社会を支援します  
地域・社会との協調、連携、復興支援を行い、社会貢献に努めます。
- BCP 意識の向上を図ります  
私たちが日々平穏に生きていられるのは当たり前ではないことを認識し、自然、社会、日常へ常に感謝する意識を全社で醸成します。

2026年4月1日  
株式会社常磐植物化学研究所  
代表取締役社長  
立崎 仁

|      |        |      |      |       |       |       |
|------|--------|------|------|-------|-------|-------|
| 営業本部 | R&D 本部 | 管理本部 | 生産本部 | DX 本部 | 品質保証室 | 経営企画室 |
|      |        |      |      |       |       |       |

S5

## 外部の利害関係者の人権



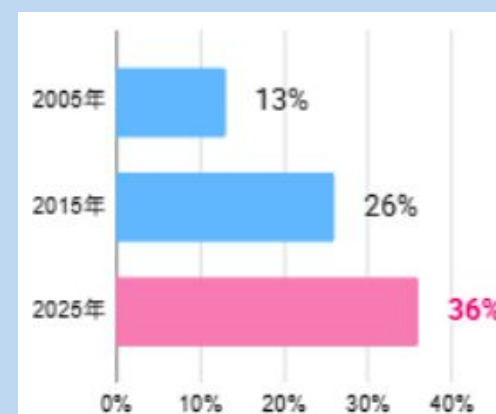
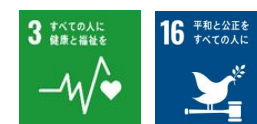
当社は、自社の従業員のみならず、当社の事業活動に関わるすべてのお客様、お取引先様、地域社会の皆様の人権を尊重します。

サプライチェーンにおける人権課題については、お取引先様と協働し、倫理的で持続可能な調達活動を通じてリスクの低減に努めています（※詳細はp.46参照）。

また、事業拠点周辺の地域社会に対しては、環境保全や安全対策を徹底し、誠実な対話を通じて負の影響の防止と救済体制の整備を進めています。

S5

## 多様性 平等 包括性



女性社員比率の推移

性別やライフイベント（妊娠・出産・育児・介護・更年期など）による制約を受けることなく、誰もが公平にキャリアを継続し挑戦できる環境整備に注力しています。

在宅勤務、フレックスタイム制（2025年2月導入）、選択的週休三日制度、副業制度などの多様な働き方を導入するとともに、男性の育児休暇取得も積極的に推進しています。

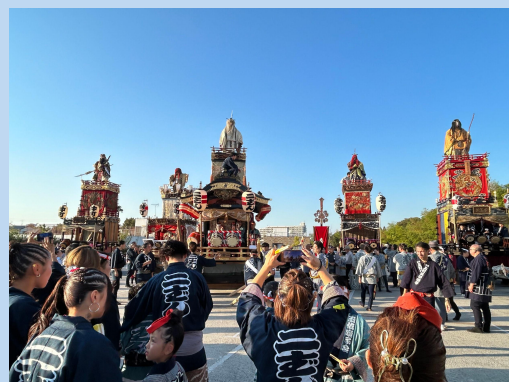
こうした継続的な環境整備の結果、2005年当時は13%だった女性社員比率が、現在は36%まで増加しました。様々な背景を持つ多様な人材が、その能力を最大限に発揮できる土壌が着実に育っています。



## 社会 – Social 地域社会への貢献・講演

S6

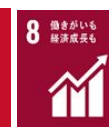
地域行事協賛  
(秋祭り、段ボールイカダCUP、  
佐倉花火フェスタ、さくら天下祭り)



伝統文化の継承や地域の活性化に貢献するため、様々な地域行事に積極的に協賛しています。特に江戸時代から300年以上続く「佐倉秋祭り」では、山車の引き回しや神輿の担ぎ手として社員が参加し、地域の方々と祭りを盛り上げています。また、佐倉市の印旛沼で開催される「段ボールイカダCUP」、夏の夜空を彩る「佐倉花火フェスタ」、そして今年より、江戸時代に日本橋の祭礼で使用された山車を用いて当時の祭りの様子を再現した「さくら天下祭り」といったイベントにも協賛し、地域の活性化に貢献しています。

S6

環境経営・健康経営の講演



2025年度は13件、社長を中心に社員含めて講演を行いました。当社の環境経営や健康経営についての講演を通じて、両経営のさらなる普及に努めています。

### <講演リスト>

- ・日本生命健康経営セミナー
- ・つくば科学技術産業イニシアティブ講演
- ・アクサ生命「健康経営ブライト500セミナー」
- ・日本でいちばん大切にしたい会社大賞報告会
- ・佐倉商工会議所女性会
- ・脱炭素スクール
- ・広島県環境マネジメントシステム導入セミナー
- ・千葉大学講義
- ・健康経営大賞
- ・エコアクション21企業交流会
- ・産業調査研究会 第4水曜グループの2月例会
- ・ローカルゼブラクロストークイベント
- ・日本経営士協会視察講演



## 社会 – Social 地域社会への貢献

S6

### 千葉県優秀企業経営者表彰 副賞寄附



2025年3月に受賞した第29回千葉県優秀企業経営者表彰 知事賞の賞金50万円を佐倉市、社会福祉協議会、市内小学校（2校）に寄附いたしました。

#### 寄附内訳

- ・佐倉市：10万円
- ・社会福祉協議会：20万円
- ・佐倉市内小学校2校：  
各10万円相当のラクロス用品

S6

### SAKURA Blossom Garden

～設立から「地域共生」と「資源循環」の深化へ～



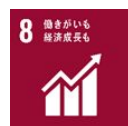
2024年度に市制70周年記念事業として設立した『SAKURA Blossom Garden』を、「地域共生」と「資源循環」を体現する実証の場としてさらに深化させました。

佐倉ハーブ園で採取した種を印旛特別支援学校さくら分校の生徒たちが苗まで育成し、その苗を再び市役所の花壇へ植栽を実施しております。また、当社製作の「バイオ炭」を土壌改良材として導入し、ガーデン内に「飛び石（歩道）」を整備しております。



S6

### CHIBAビジコン2026サポーター賞の提供



サポーター企業として「tokiwaSODA賞」を設けました。今までにない手段で「糖尿病予防・血糖値管理」にアプローチするもので、植物と健康の観点で当社と親和性が高いことから、以下起業家・プランに授与しております。



- 千葉大学学術研究・イノベーション推進機構  
スタートアップ・ラボ 客員起業家 松永博充  
～血糖値が気になる方に、美味しいお米の挑戦～

昨年授与した株式会社Jizokuとは、新たなネットワークで新たな環境活動を協働しております。



## 社会 – Social 受賞

S6

### 健康経営大賞in山梨 優秀賞 受賞



2025年11月20日に開催された「健康経営大賞2025 in 山梨」にて、企業部門のファイナリスト5社に選出され、プレゼン発表を行いました。その結果、”優秀賞”を受賞しました。

健康経営大賞は、全国から選抜された企業が健康経営の事例を紹介するコンテストです。企業部門の千葉県代表としては「初の発表・受賞」という快挙となりました。

全国の数ある取り組みの中から、tokiwaの活動（健康経営サプリや「sakuraヘルシーテラス」などウェルビーイング施設による健康増進、働きやすさ改善など）を評価いただけたこと、大変光栄に思います。

この受賞で得た学びを踏まえて、更に社員の幸福と社会の発展に貢献し、皆さまから「生かされる」会社作りに邁進してまいります。

### 経営企画室室長による評価と見直し



「植物に感謝し、生かされる会社」となるためには、社内外のステークホルダーがtokiwaのことを「生かしたい」と思っただけのような会社でありたいと考えています。

「sakuraヘルシーテラス」と「SAKURAスポーツパーク」は社内外の全てのステークホルダーがウェルビーイングとなるよう創られた施設であり、日々の従業員の心身の健康を支え、2025年度は21,956人の方にお越しをいただきました。これは、BtoBの会社としては異例のことだと考えております。

スポンサーでもある「北総ライノス」の選手2名を採用、柴海農園のレストラン事業の開始、株式会社Jizoku・株式会社柴海農園・ユウカリ木こり倶楽部とのバイオ炭事業におけるコラボレーションは「生かされる会社」を目指し「人が集まる」ということを重視した活動の成果だと考えております。

他方、社内のステークホルダーとして従業員を対象としても様々な活動に取り組んでまいりました。健康経営の実績として、健康経営優良法人2026ネクストブライト1000認定をいただいております。

これらの活動は業績を伸ばしながら、健康経営を実行するという両立が非常に重要だと考えています。

## 社会 – Social 継続取り組み

| カテゴリ                 | 2025年度実績                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 関連するSDGs目標                                                                                                                                                                  |
|----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 健康な社会づくり             | <ul style="list-style-type: none"> <li>年に数回、ウェルビーイング施設を会場にマルシェを開催しています。キッチンカーやハンドメイド、ワークショップの出店者が多数集まり、約6,000人のお客様に来場いただいています。</li> <li>2025年度は4月、6月、9月、11月、2月の合計5回開催しました。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                          |
| 教育活動への貢献<br>次世代人材の育成 | <ul style="list-style-type: none"> <li>2025年9月23日に第5回佐倉サイエンスアカデミー・佐倉アクティブを開講いたしました。</li> </ul> <p>佐倉サイエンスアカデミーとは、世界で活躍されている研究者の方々に、植物化学(科学)について幅広く分かりやすくお話しただく講義です。今回はソメイヤッコ（薬壺）研究所所長の染井正徳先生をお招きし、食糧問題の解決の糸口となる化合物”ソムレ”をテーマにした講演をしていただきました。</p> <p>佐倉アクティブは今回で14回目の開講となり、樹脂を使ったアントシアニンの精製原理・技術について講座を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2025年11月28日(金) 植物化学研究会主催の「第61回植物化学シンポジウム」が東京大学弥生キャンパスにて開催され、植物化学研究会と共催で「第3回松尾仁賞」を、以下5名に贈呈いたしました。</li> </ul> <p>東北大学大学院 理学研究科化学専攻 松本 幸太郎 氏<br/> 東京理科大学 生命システム工学専攻 渡辺 奈美 氏<br/> 千葉大学大学院 薬学研究院 河西 俊介 氏<br/> Faculty of Pharmaceutical Sciences, Univ of Tokyo CHENG Wenjiao 氏<br/> 学習院大学大学院 自然科学研究科生命科学専攻 田名部 大士 氏</p> |   |
| 地域社会への貢献             | <ul style="list-style-type: none"> <li>能登半島地震の被災地復興を支援するため、2026年1月18日に第3回チャリティー映画上映会を開催しました。会場では上映した映画「風が灯るころ~奥能登、珠洲の記憶~」の監督である有馬 尚史様をお招きして、撮影秘話や能登へのメッセージを話していただきました。</li> <li>チケット料金と当社からの支援金は「NPO法人 チーム能登喰いしん坊」に寄附し、被災地への支援を継続しております。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                        |
| 地域周辺美化活動             | <ul style="list-style-type: none"> <li>「地域の人々との共生」をテーマに、2007年より毎月、会社周辺の美化活動を行っており、2026年3月時点で実施回数は206回に上ります。参加は挙手制で、歩道のゴミ回収、会社近くの神社境内の清掃、本社構内の草抜きなど、地域の景観を守るため、社員自ら積極的に取り組んでいます。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |   |



## ガバナンス – Governance

### ●ガバナンス体制

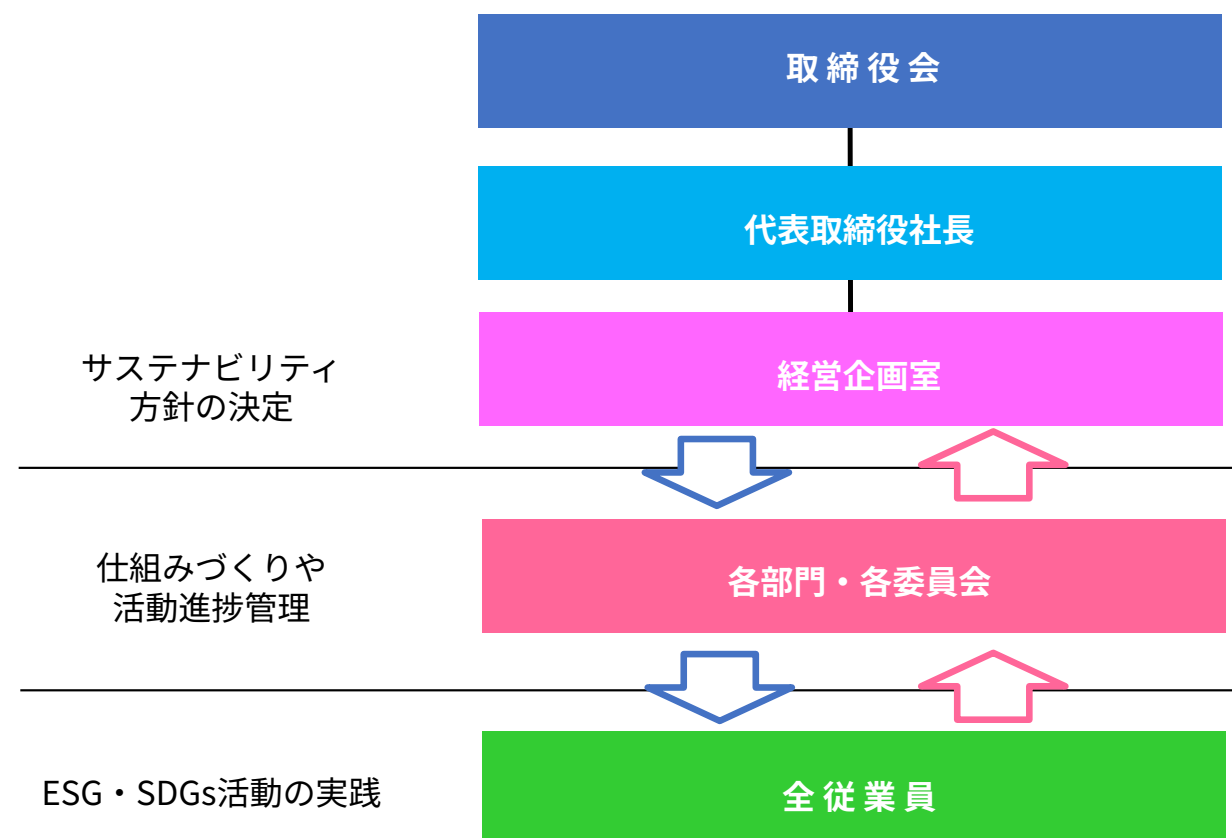
2020年4月より「サステナビリティ統括室」を設立、  
2023年4月からは「経営企画室」と統合して代表取締役社長の傘下とし、「経営企画室」が方針を決定し、各部門・各委員会が仕組みづくりや活動の進捗管理を担う形で、全従業員がサステナビリティ活動を実施する体制を整備しています。  
2025年度には役員体制を刷新し、更なるガバナンスの強化に努めています。

### ●リスク管理

サプライチェーンのモニタリング、製品の安全性評価、HACCPおよび健康食品原材料GMPの基準に則った製造体制、情報セキュリティ評価を実施しております。

### ●リスク対応のプロセス

安全衛生委員会や各種相談窓口の設置、EA21委員会による評価やモニタリングを実施しております。



### 取締役スキルマトリクス

| 氏名   | 役職      | 性別 | 経営 | 財務・会計<br>・経営管理 | 法律・リスク管理 | 人事・人材開発 | IT・デジタル | 国際性<br>・グローバル | サステナビリティ<br>・ESG | 研究開発 | 製造技術 | 営業<br>・マーケティング | 品質・<br>レギュラトリー |
|------|---------|----|----|----------------|----------|---------|---------|---------------|------------------|------|------|----------------|----------------|
| 立崎仁  | 代表取締役社長 | 男性 | ●  | ●              | ●        | ●       |         | ●             | ●                | ●    | ●    | ●              |                |
| 楊金緯  | 専務取締役   | 女性 | ●  |                | ●        | ●       |         | ●             | ●                | ●    | ●    | ●              |                |
| 木村宜仁 | 常務取締役   | 男性 | ●  |                | ●        |         |         | ●             | ●                |      | ●    |                | ●              |
| 宮入則之 | 取締役     | 男性 | ●  | ●              | ●        | ●       | ●       |               | ●                |      |      | ●              |                |
| 立崎梨紗 | 取締役     | 女性 | ●  | ●              | ●        |         |         | ●             | ●                |      |      |                | ●              |
| 立崎貴子 | 取締役     | 女性 |    |                |          |         |         |               | ●                |      |      | ●              |                |
| 田中昌夫 | 監査役     | 男性 | ●  | ●              |          |         |         |               |                  |      |      |                |                |

# ガバナンス – Governance 持続可能な調達

## 調達方針



株式会社常磐植物化学研究所

### 調達方針

私たちは、公明正大でかつ倫理的な調達活動を通じ、持続的な企業価値の向上とサプライヤー様との相互繁栄を目指します。

1. 社会的責任の尊重  
環境への配慮、人権尊重、労働環境の改善といった社会的責任をサプライチェーン全体で推進していきます。
2. コンプライアンスの遵守  
事業活動を行うすべての国・地域において、関連する法令、社会規範、および国際的なルールを遵守します。
3. リスクマネジメントの徹底  
サプライチェーンの健全性を確保し、災害や供給停止などのリスクに備えることで、安定的な事業継続を図ります。
4. 品質へのこだわり  
倫理的かつ持続可能なプロセスを通じて、確かな品質と安全をお届けします。
5. サプライヤー様との協働  
パートナーシップを重視し、サプライヤーとの長期的な信頼関係を築くことで、相互の成長と発展を目指します。

2026年4月1日

株式会社常磐植物化学研究所  
代表取締役社長

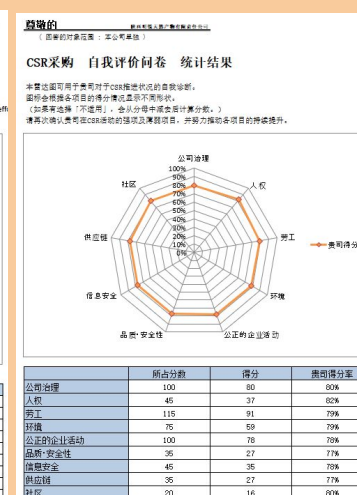
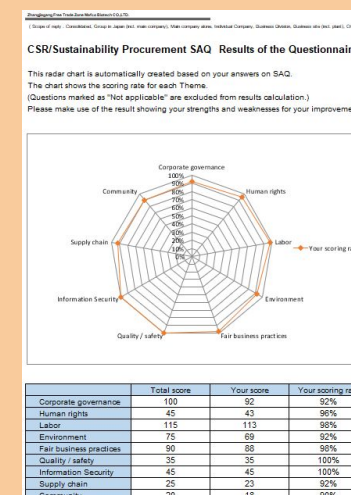
立崎 仁

|      |        |      |      |       |       |       |
|------|--------|------|------|-------|-------|-------|
| 営業本部 | R&D 本部 | 管理本部 | 生産本部 | DX 本部 | 品質保証室 | 経営企画室 |
|      |        |      |      |       |       |       |

## サプライヤーに対するCSR評価 (環境慣行、社会慣行)



当社ではCSRの啓発・向上を目指してグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンにて策定された「CSR調達セルフ・アセスメント質問表」を用いて、海外サプライヤー約15社の調査を実施しております。2026年度は国内サプライヤーの調査も開始し、国内、海外において、購入金額上位10社以上のCSR調査を実施します。



## 児童労働・強制労働・人身売買の禁止



当社は世界各国から植物原料を調達し、皆様の健康に寄与する製品の製造に取り組んでおります。様々な原料原産地のサプライヤーと協働し、人権の尊重を目指して以下の取り組みを推進しております。

- ・児童労働、強制労働、人身売買、および非人道的な扱いの有無を調査し、発覚した場合、サプライチェーンの改善を目指します。
- ・人種、国籍、性別、宗教、信条、障がいの有無などによる差別を行わず、機会の均等と多様性を尊重します。





# ガバナンス – Governance 情報セキュリティ

## 情報セキュリティ基本方針



株式会社常磐植物化学研究所

### 情報セキュリティ基本方針

私たちは、お客様にご満足いただけるサービスを提供するために、高度情報化社会における情報資産を事故・災害・犯罪などの脅威から守り、お客様ならびに社会の信頼に応えるべく、情報セキュリティ基本方針を定め、当社の情報セキュリティに対する取り組みとして宣言します。

1. 社内体制および情報セキュリティポリシーの整備を実施します  
当社は、セキュリティの維持及び改善のために必要な管理体制を整備し、必要な情報セキュリティ対策を行うために社内の正式な規則として情報セキュリティポリシーを定めます。
2. リーダーシップにおける責任および継続的改善を主導します  
当社の経営者は、情報セキュリティポリシーの遵守により、当社及びお客様の情報資産が適切に管理されるよう主導します。
3. 法令、契約上の要求事項の遵守します  
当社の業務に従事する者は、事業活動で利用する情報資産に関連する法令、規制、規範及びお客様との契約上のセキュリティ要求事項を遵守します。
4. 当社業務に従事する者の取組みを確かなものにします  
当社の業務に従事する者は、情報セキュリティの維持及び改善のために必要とされる知識、技術を習得し、情報セキュリティへの取り組みを確かなものにします。
5. 違反及び事故への対応体制を整備し違反・事故時の影響を低減します  
当社は、情報セキュリティに関わる法令、規制、規範及びお客様との契約に関わる違反及び情報セキュリティ事故への対応のための体制を整備し、すべてのステークホルダーに対し、違反及び事故の影響を低減します。

2026年4月1日

株式会社常磐植物化学研究所

代表取締役社長

立崎 仁

| 営業本部 | R&BD 本部 | 管理本部 | 生産本部 | DX 本部 | 品質保証室 | 経営企画室 |
|------|---------|------|------|-------|-------|-------|
|      |         |      |      |       |       |       |

## SECURITY ACTION



セキュリティ対策自己宣言

本方針の策定・公開に伴い、独立行政法人情報処理推進機構（IPA）の推進する「SECURITY ACTION」の「二つ星（★★）」を自己宣言いたしました。  
「SECURITY ACTION」は、中小企業自らが情報セキュリティ対策に継続的に取り組むことを自己宣言する制度です。当社は今後も、本方針および二つ星の宣言に基づき、社内体制の強化や従業員への教育を推進し、ステークホルダーの皆様にご安心いただける強固な情報セキュリティ体制の維持・向上に努めてまいります。

## 情報セキュリティ評価



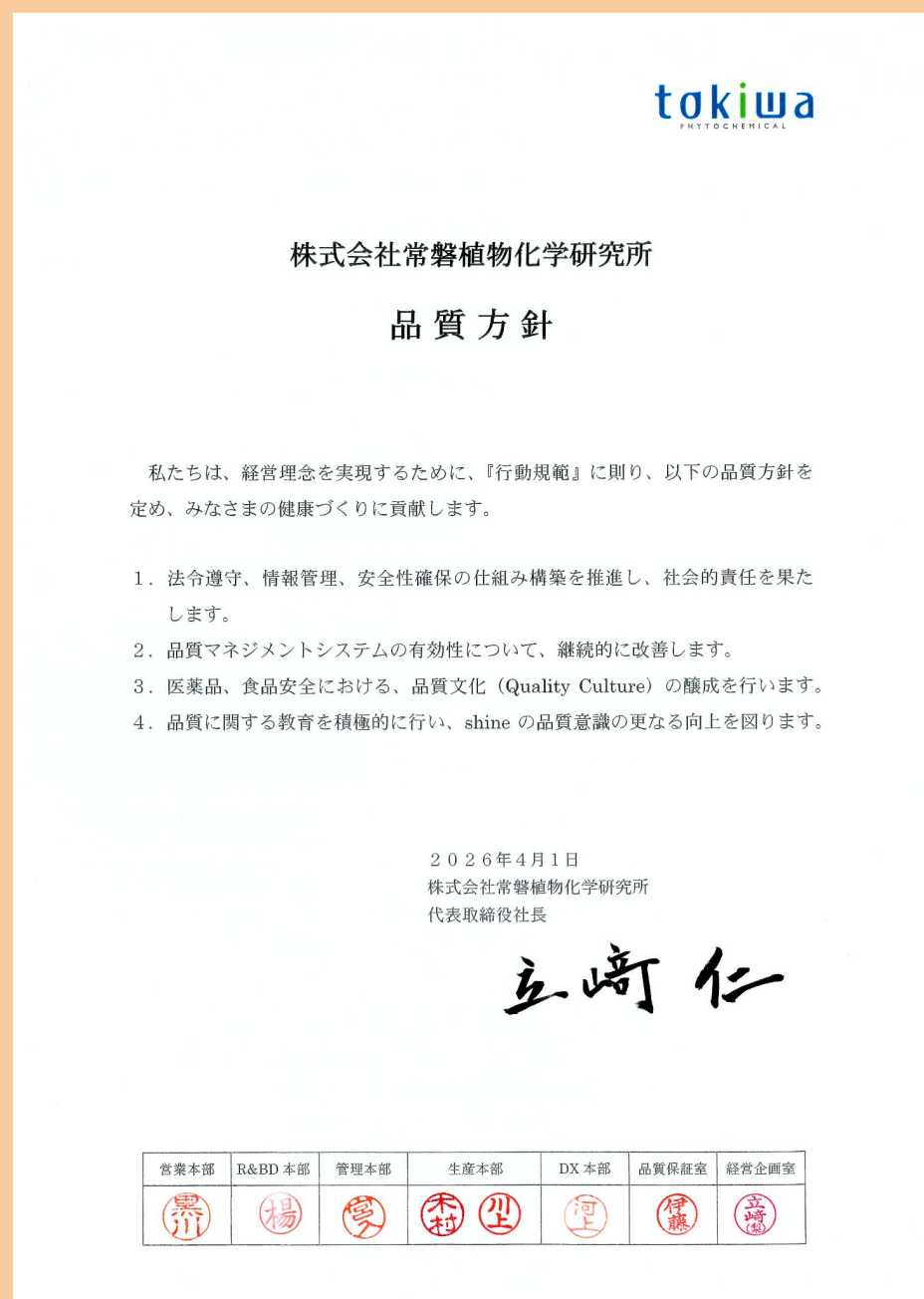
昨今のサイバー攻撃の高度化・巧妙化を受け、現在、情報セキュリティ管理体制およびポリシーの全面的な見直しを実施しています。特に基幹業務を対象とした、サイバー攻撃被災時の復旧プロセスを含むBCP計画の策定・見直しに取り組んでいます。

防御面では技術的対策だけでなく、従業員の意識向上を重要指標として評価しています。全従業員を対象とした標的型メール訓練:を定期的・継続的に実施し、開封率と報告率を測定、最新の脅威事例を用いた研修を全社規模で実施し、セキュリティ文化の醸成を図っています。

万が一のインシデント発生時に備え、迅速な事後対応（フォレンジック調査等）を可能にするため、サイバーセキュリティ保険に加入するなどリスク対策を行っています。

# ガバナンス – Governance 品質保証

## 品質方針



法令順守・監査対応  
(GMP、HACCP、宗教認証など)



当社工場ならびに製品では下記の認証を取得し、確かな品質の製品づくりにつなげています。

- ・医薬品製造業許可
- ・動物用医薬品製造業許可
- ・食品営業許可証（清涼飲料水製造業）
- ・食品営業許可証（添加物製造業）
- ・食品営業許可証（密封包装食品製造業）
- ・JIHFS健康食品原材料GMP認証
- ・Codex規格HACCP認証
- ・ハラール認証（一部製品にて）
- ・コーシャ認証（一部製品にて）

また、当社では、海外（米国FDA 他）を含め、査察や監査の積極的な受入れを行っています。その中でいただいた貴重なご意見には真摯に向き合い、常に品質水準の向上に努めています。



## ガバナンス – Governance 利益相反の管理・知財

### 利益相反の管理（反競争的習慣） 行動規範



『経営理念』と、『行動規範』を遵守し、地域、社会の未来を牽引できる倫理観を持ち続け、社会的責任を果たします。全取引先が重要なステークホルダーであり、公正な取引を行うことを目指しています。

2026年1月施行の「中小受託取引適正化法（通称：取適法とりてきほう）」を遵守すべく、社内勉強会を実施し、全取引先との取引の見直しを実施いたしました。

### 経営企画室室長の評価と見直し



2025年度は新たに「人権方針」と「情報セキュリティ基本方針」の二つが追加されています。特に昨今では大手企業がセキュリティインシデントによる業務停止が発生しており、当社においては防御も当然ですが、取引先の皆様への影響を最小限に留めるべくインシデント発生時の業務復旧の短期化を重視した体制構築を進めております。

継続事項としては「正しくない方法によって生み出されたキャッシュフローは永続的ではなく、評価に値しない」ということ、「ガバナンスを重視することが会社を強くする」という2点については2025年度は進展あれど、道半ばであり、社内に浸透させていきます。

オーナー企業であっても会社の持続的な発展のためには、コーポレートガバナンスが重要となります。100周年を目指し、強力なリーダーシップを持つ社長への依存度を引き下げられるような体制の構築を進めています。経営における意思決定プロセスを明確性と、その体制の持続性の確保です。具体的な打ち手として実施した新取締役体制と、サクセッションプランとして取締役・本部長のナンバー2面談制度については一定の成果が出ていることを実感しております。引き続き社長退任時や、社長、取締役・本部長に万が一があったとしても事業継続への影響を最小限に留める体制の構築を目指します。

### 知財の経済価値



R&BD本部は知財戦略を重視し、知財の創出に積極的に取り組んでおります。

特許の権利化数は、  
2026年3月時点で28件保有しております。  
（2016年比で18件増加）  
当社知財の経済価値としては約33.9億円と計測されました。

特許査定の委託先：  
三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

## ガバナンス – Governance 継続取り組み

| カテゴリ                   | 2025年度実績                                                                                                                                                           | 関連するSDGs目標                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 全社総会                   | 7月18日に第12回全社総会を実施しました。全社員に対し、前年度の経営情報を共有しています。売上実績だけでなく、利益や労働生産性、今後の展望についても共有し、全社員の意識を高めています。<br>質疑応答の時間を設け、社員から役員へ、様々な質問がされ、その場もしくは後日回答しています。                     |                                                                                             |
| 経営理念研修                 | 新入社員を中心に3回にわたる経営理念研修を行いました。毎年、「三方よしビジネスサポート研究所」の講師をお招きしています。<br>本研修はマネジメントの基本から、松下幸之助の仕事に対する様々な考え方を学び、経営理念を軸とした「理念経営」の実践へと活かすことを目的としています。                          |                                                                                           |
| 株主総会                   | 年に1度、株主に対し、前年度の経営情報を報告しています。また株主総会の様子は録画し、全社員が閲覧できるようにしています。                                                                                                       |    |
| 1on1面談、コーチング面談、ナンバー2面談 | 従業員のキャリアに合わせて、1on1面談、コーチング面談、ナンバー2面談を実施し、従業員ひとりひとりの能力開発、キャリアアップをサポートしています。                                                                                         |                                                                                         |
| 事業継続力強化計画認定            | ・2021年3月に、「事業継続力強化計画」の認定を受けました。事業継続力強化計画とは、中小企業が策定した防災・減災の事前対策に関する計画を経済産業大臣が認定する制度です。<br>・当社では独自のBCP方針を策定しており、有事の際には方針に従い行動します。今後も防災・減災対策を促進していき、事業継続力強化に精進して参ります。 |                                                                                                                                                                              |
| コンプライアンスに関する窓口設置       | コンプライアンスに反する職場・事業活動に関する窓口を設置しており、社員が匿名で意見を提出できるようになっています。提出された意見は役員会にて協議され、改善が必要な場合は即座に対応する体制を構築しています。                                                             |                                                                                         |



## ●ステークホルダーエンゲージメント

ステークホルダー 関連するマテリアリティ

主なアプローチ

|                |                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|----------------|---------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| サプライヤー<br>お客様  | 健康な社会づくり                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>CSアンケート：年1回実施（2025年10月実施）</li> <li>公式HP、メルマガ配信を通じた情報提供</li> <li>お問い合わせ窓口の設置</li> <li>顧客との対話（展示会・商談・訪問）</li> </ul>                                                                                                                                                   |
| 株主             | ガバナンスの強化                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>株主総会：年に1回開催（毎年6月）</li> <li>ESGレポート・公式HPを通じた情報提供</li> </ul>                                                                                                                                                                                                          |
| 行政             | 法令順守<br>環境負荷の軽減                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>千葉県、佐倉市</li> <li>許認可の取得</li> <li>補助金申請</li> <li>顕彰制度へのエントリー</li> </ul>                                                                                                                                                                                              |
| 学術団体・研究機関      | 健康を配慮した<br>素材の開発                | <ul style="list-style-type: none"> <li>共同研究</li> <li>学会発表</li> <li>研究会、学会への参加</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                   |
| 社会<br>・NPO・NGO | 環境負荷の軽減<br>地域社会への貢献<br>次世代人財の育成 | <ul style="list-style-type: none"> <li>ウェルビーイング施設の一般開放（佐倉ハーブ園、sakuraヘルシーテラス、SAKURAスポーツパーク）</li> <li>地元行事への参加</li> <li>社会貢献活動・ボランティア活動</li> <li>教育CSR</li> <li>地元スポーツチームのスポンサー活動</li> </ul>                                                                                                                 |
| 社員             | 働きやすい<br>職場環境づくり<br>従業員の健康増進    | <ul style="list-style-type: none"> <li>ESアンケート：年2回実施（2025年9月、2026年3月実施）</li> <li>全社朝礼：毎月実施</li> <li>全社総会：年1回実施</li> <li>全社研修会：年1回実施</li> <li>各種社員相談窓口の設置</li> <li>社員表彰制度（社長賞、年間優秀社員賞）</li> <li>健康経営</li> <li>研修・セミナーを通じた能力開発機会提供</li> <li>1on1面談、コーチングの実施</li> <li>フレックスタイム制度</li> <li>SRHR休暇制度</li> </ul> |

### 代表者による評価と見直し（総括）



ESG経営に関する取り組みが一層充実し、非財務価値の可視化や知的財産の定量評価、環境・人権への配慮、健康経営や地域社会との連携など、持続的な企業価値向上に向けた取り組みを着実に進めることができました。一方で、一部の環境・労務KPIについては目標未達の項目もあり、その結果を真摯に受け止めています。各部門においては、未達要因を十分に分析したうえで、具体的な改善策と実行計画を策定・実践し、目標達成に向けて着実に改善を進めてください。経営としても必要な支援を行いながら、全社一丸となってESG経営のさらなる推進に努め、すべてのステークホルダーから信頼される持続可能な企業づくりを目指してまいります。

専務取締役

楊金緯

ESGレポート2026は、  
以下項目は問題のない事を確認した。

- ☒ 各種方針について
- ☒ ESGの取り組み内容について
- ☒ その他の変更

代表取締役社長

立崎 仁



見てくれて  
ありがとうたむ♪

## ラフマの妖精 べねたむ

### 【名前の由来】

リラックスハーブとして知られる「ラフマ」という植物の学名 *Apocynum Vetenum* が由来。

### 【特徴】

語尾に「たむ」がつく。耳としっぽは葉っぱ、頭にはラフマのお花が咲いている。

### 【特技】

寝ること、注意力をサポートすること、みんなをリラックスさせること。



べねたむの日常を  
Instagramで発信中！